聖法の道

第六巻第四号 一九五八年三月十七日第三種郵便物認可（毎月一回一日発行）
一九六二年四月一日発行

末日聖徒イエス・キリスト教会

The Seito no Michi
Volume 6, Number 4

Contents for April 1962

A Prophet's Voice: The Most Important Meeting of the Church. ..... President David O. Mckay ... 195
President's Message ..... President Paul C. Andrus ... 199
Your Question: "Where is the Garden of Eden?" ..... President Joseph Fielding Smith ... 202
Ensign-Laurel, Course of Study 206
Look up in Peace
Tabernacles of Flesh
Branch News 217
Nagoya, Okamachi, Sannomiya, Sendai, Sapporo
Tokyo-South, Tokyo West.
A special article: A White Horse ..... Brother Masao Watabe ... 220
On the Winter Conference of South Central District 222
Younger Generation (The Voice of Youth) 225
Letters from America ..... Brother F. Narita ... 227
Brother S. Asada
A Shadow Picture Play for S. S. Children 231
"A Timid Hare"
Church Articles 235
Sunday School Guide for S. S. Children
Sunday School Guide
MIA Leader
Essentials in Church History (28) ..... President Joseph Fielding Smith ... 246
English Conversation Texts 250
Mission Headquarter News 254
Poetry: "Fantasy" ..... by Brother Fujita ... 256

「聖徒の道」4月号　目　次

予言者のことば…教会で最も重要な集会……大管長　デビド・O・マッケイ…195
伝道部長メッセージ……ポール・C・アンドラス…199
質疑応答…「エデンの園」はどこにあるか……ジョセフ・フィールディング・スミス…202
エンサインローレル教科課程…安心して上を見なさい……206
肉の幕屋……212
支部だより……217
白き馬……渡部正雄…220
西中央地方部冬期大会報告……柳田聰子…222
ヤンガージェネレーション……225
フーチャンの便り……成田富士夫…227
B・Y・Uに出席しながら……朝田茂一…228
こどものためのかげえ…おくびょううさぎ……231
子供の日曜学校ガイド……235
日曜学校ガイド……238
MIAリーダー……242
末日聖徒イエス・キリスト教会歴史粋……ジョセフ・フィールディング・スミス…246
EIGO KAIWA TEKISUTO……250
伝道本部だより……254
幻想……フジタ裕穂…256

神殿をたずねて ④

「ニュージーランド神殿」

一九五七年四月二十日設立。

ニュージーランド神殿は、ソルトレーク市にある本部より最も離れた所にあり、また繁栄都市ハミルトンから五マイル、ニュージーランドの最大都市であるオークランドの南方八十六マイルにある Tuhikaramea の丘の上にある。神殿は、ニュージーランド、オーストラリア、南オーストラリア、サモアトンガ、タヒチの教会員を収容している。

大管長　**デビド・O・マッケイ**

予言者のことば

教会で最も重要な集会

大管長　デビド・O・マッケイ

「会員はしばしば会合してパンと葡萄液とに与り……主イエスを記念するは必要なり」

教義と聖約第二十章七十五節

私たちが「神の家」で集り合うのは、単なる交際のためではなくて、キリストの教会員にふさわしい兄弟愛のためである。私たちは「互いに愛せよ」と仰せになったお方の前に集る。ここに集り合うことから得られるもっとも大きな利益の一つは、それによって新しい且つ霊を高める思想と感情とをけいけんすることである。これらの思想と感情とは必ずしも集りに於て話をする者が与えるわけではない、話をする者はただ思想をよび起すだけである。しかし、話に耳を傾けているうちに新しい思想もしくは気高い感じをけいけんする人々は、これによって礼拝のために集る人々に与えられる最も大きな祝福の一つを受けるのである。

私はいま、主なる神が聖餐会を教会に於ける最も重要な集会として指定したもうたことを強調しなくてはならないと強く心に感じている。冒頭にかかげた聖句は、啓示によってジョセフ・スミスに与えられたものであって、主なる神はそのとくべつな集会について仰

せになっている。「教会員はしばしば会合して」、しかもそれははばく然とした目的をもってではなくて、聖餐にあずかるというとくべつな目的をもって集り「主イエスを記念するは必要なり」と仰せになっている。

聖餐をいただく儀式は、末日聖徒イエス・キリスト教会の儀式の中でも、最も神聖な儀式の一つである。この儀式には人格を形づくるもととなり、神の王国の中で進歩と昇栄とを受けるために欠くことのできない、いろいろの原則が伴っている。聖餐にあずかる人々の中で、この簡単ではあるが壮厳な儀式に、それが受けるに価するひじょうな重要性を認めている人はきわめて僅かである。不幸なことに、礼拝の有様は往々その深い霊的の意義を心底から認めていない外見上の従順さになってしまっている。

聖餐をいただくとき、中には霊のことよりは形式上のことの方を大切にする危険がみとめられる人々があるが、聖餐にあずかる資格をそなえ且つ真実けいけんな心をもって聖餐をいただく人は、「神の御子」の教会員たる資格を立派にそなえている人である。

聖餐をいただく一人一人のために捧げられる「パンと水の祝禱」には、一人一人が主なる神について持つ関係と、一人一人が引きうける責任とがはっきり示してある。「けいけんの念」と「約束の神聖なこと」とはその中に強調してある二つの原則である。

「永遠の父なる神よ」というよびかけの言葉は、この儀式のために集った人々が「主なる神」が真実この場に臨みたもうこと、少くとも心底から「主なる神」を求めている人々の霊と主の「みたま」とのまじわりが可能であることを認めている言葉である。

聖餐がくばられる間、人々はけいけんな態度をいつも保っていなくてはならない。会衆一同はキリストのうるわしい徳行を考えていなくてはならない。聖餐をいただく者たちが

神の御子を「記念する」ために聖餐をいただくよう、パンと水が「祝いきよめ」られるからである。

「名誉にかけた約束」ほど神聖なものは人の世に於てその数が少い。正直と誠実とは基本的な徳である。これがなければ気高い人格をつくることはできない。約束を重んじない人、「名誉にかけた約束」をかろんじ無視する人は「貝がら」のようにうつろな霊の持ち主である。聖餐をいただくすべての人々は「永遠の父なる神」に、喜んで或る事をすると証明をする、証拠立てる、もしくは立証をするのである。まことに、神の前に証明したことは決して破ることのできない性質をもっている。それであるから、聖餐をいただく者は一人のこらず喜んで、三つのひじように大きな責任を負うことを神の御前で証明するのである。そして聖餐をいただく者が神と約束をする第一は、「喜びて御子の御名を受け」ることである。「御子の御名」によって呼ばれる資格があることは「神の子」の一人となることであり、キリストの教会員の一人に数えられることである。第二は、

「御子を常に忘れ」ぬことである。常に忘れぬとは、知っていることをたえず意識していることである。会衆一同はキリストのうるわしい徳行をよくよく考えなくてはならない。それは一同が、清浄と親切と愛の縮図である一生をお過ごしになったお方を、感謝とけいけんの念をもって常に忘れないと約束をするからである。一同はいかなる時にも悪を避け、徳を心がけ、憎しみのかわりに同情と慈悲をあらわさなくてはならない。

第三の責任は「その下したまえる誡命を守る」ことである。その下したまえる誡命は数多くある。しかし、イエス御自身はそれらを総括して「心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ…自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ」

（マタイ伝二十二〇三十七・三十九参照）と仰せになった。これこそ、聖餐をいただく者が一人のこらず喜んで行わなければならぬことである。

以上三つの義務に従う者に与えると言われている総括的の酬いは「神のみたま」が「共にましまし」て、導きと霊感を授けたもうことである。

キリストの羊群に入るために神の御前に於て秩序を守りけいけんの念をもって証拠を立てること、まごころから主なる神を愛すること、兄弟愛のためには自己をぎせいにしても働らくこと、以上およびこれに類する徳行はことごとく聖餐をいただくことと密接に関連をしている。

重ねて私は、主がその民に仰せになった「会員はしばしば会合して……主イエスを記念するは必要なり」という御言葉を強調したい。そして私は、末日聖徒たる者はどこに住んでいようと、一定の時に一定の場所へ行って聖餐会に出席するよう切に願う次第である。

「汝なおさら充分に世の汚れに染まざるよう、祈りの家に行きてわが聖日に汝の聖式を捧ぐべし」

「そはまことにこの聖日は、汝命ぜられて働きを休み、いと高き者に礼拝を捧ぐべき日なればなり」。

「教義と聖約」第五十九章、九・十節

伝道部長メッセージ

ポール・C・アンドラス

北部極東伝道部は千九百六十一年中にまたすぐれた進歩をいたしましたから、ここではもっぱら伝道部に関する二、三の統計について紹介したいと思います。

千九百六十一年は改宗者獲得の結果から見て、当伝道部の歴史中これまでのところ最も成功した年でありました。千九百六十一年中に行われたバプテスマの数は千三百二十四でありますが、これは前に高い数字を示した千九百六十年の九百二十七にくらべて四十三パーセントの増加であります。この合計の内わけをみますと、千百六十二が専任宣教師による改宗者のバプテスマ、三十六がLDS軍人組織による改宗者、そして三十四が千九百六十一年中にバプテスマを受けた「会員の小児」の数であります。

千九百六十一年中には北部極東伝道部に平均百四十六・九名の専任宣教師（延人員）が居りましたから、宣教師一人当りのバプテスマ（改宗者）数は八・二となります。そのうち韓国には平均二十一・六名の専任宣教師が居りまして年間三百九十八名の改宗者がありましたから宣教師一人当りの平均は十八・四名の改宗者となり、沖縄には平均八・二名の専任教師が居て年間五十三名の改宗者がありましたから宣教師一人当りの平均は六・三名の改宗者となります。また日本には平均百十八・六名の専任宣教師が居りまして年間合計七百十一名の改宗者がありましたから宣教師一人当りの平均は六名となります。そして、現在のところ（千九百六十二年三月）北部極東伝道部には百七十七名の専任宣教師と十七名の非専任宣教師とが居りますから、千九百六十二年の見通しはこれまでより一層よいので

あります。

現在当伝道部には五つの地方部と三十三の支部がありますが、その内わけは、日本に二十六支部、韓国に五支部、沖縄に二支部であります。このほかＬＤＳ軍人に四地方部、八支部、十八のグループが当伝道部にありますが、その内わけを申しますと、日本に六支部と九グループ、韓国に八グループ、沖縄に一支部と一グループがあります。

千九百六十一年中に、当伝道道の全会員数は五千百九十九名から六千六百八十九名にふえたのでありますが、このうち五千三百二十四名が日本、韓国および沖縄人で、千三百六十五名がＬＤＳ軍人組織に属しています。

実際のところ、当伝道部の区域内に約千五百名のアメリカ人会員が居りますが、そのうち当伝道部へ名簿の移転が行われている者は千三百六十五名であります。千九百六十一年の終りにはＬＤＳ軍人組織に属している会員を勘定に入れないでも、日本に三千八百三十八名、韓国に千二百二十名、沖縄に二百六十六名の会員がありました。

千九百六十一年の改宗者千二百九十名中、男は六百二十九名女は六百六十一名であります。また五千三百二十四名（日本、韓国、沖縄人）の会員のうち二千八百三十二名(五十三パーセント)が女で、二千四百九十二名（四十七パーセント）が男であります。そして日本に於ける三千八百三十八名の会員中、二千百二十名（六十四パーセント）が女で千七百十八名(三十六パーセント)が男であります。沖縄でも女の方が男よりも多くて男の八十七名(三十三パーセント)に対して女が百七十九名（六十七パーセント）であります。しかるに、韓国ではいつでも男の方が女よりも多くて、千九百六十一年の終りに男が六百八十七名(五十六パーセント）女が五百三十三名(四十四パーセント）でありました。これを千九百六十一年の改宗者についてみますと、日本に於ける改宗者中四百三十七名（五十四パーセント）は女、三百六十六名（四十六パーセント）は男でありました。また韓国では二百十七名（五十五パーセント）が男、百八十一名（四十五パーセント）が女であり、沖縄では三十七名（七十パーセント）が女で十六名（三十パーセント）が男でありました。

千九百六十一年は年間を通じて神権者の数がいちじるしく増し、年の終りには当伝道部に八百九十六名（日本、韓国、沖縄人）の神権保持者がありました。その内わけは長老が百八十五名、祭司が百八十名、教師が百七十一名、執事が三百六十名であります。これを地区別にしますと、日本には百五十二名の日本人長老、韓国には二十九名の韓国人長老、沖縄には四名の沖縄人長老があります。また日本に百三十三名の日本人祭司、韓国に四十四名の韓国人祭司、沖縄に三名の沖縄人祭司があります。また日本に百三十一名の日本人教師、韓国に三十五名の韓国人教師、沖縄に五名の沖縄人教師があります。また日本に二百五十名の日本人執事、韓国に九十六名の韓国人執事、沖縄に十四名の沖縄人執事があります。

千九百六十一年の終りには、日本に六百六十六名の日本人神権者韓国に二百四名の韓国人神権者、沖縄に二十六名の沖縄人神権者が

ありました。また千九百六十一年中に二百八十名がアロン神権に按手聖任され、五十九名がメルケゼデク神権に按手聖任されましたから、合計三百三十九名が日本、韓国、沖縄人の中から千九百六十一年中に神権者として按手聖任されたわけであります。これを前年と比較しますと、千九百六十年に二百七十名、千九百五十九年に三百二十九名、千九百五十八年に二百八十六名、千九百五十七年に二百名、千九百五十六年に五十七名、千九百五十五年に二十六名でありました。

千九百六十一年中には、当伝道部に属する教会員の（日本、韓国沖縄人）四十八名が結婚しました。その内わけは男が十八人女が三十人であって、この男十八人のうち十四人が教会員と結婚し、四人が非教会員と結婚しました。また女三十人のうち十四人が教会員と結婚し、十六人が非教会員と結婚しました。

当伝道部は、千九百六十一年中に建築基金の募集に大きな成功を収めました。募金の合計は千九百六十年の一六、七三九・五二ドルに比較して二五、五九八・五三ドルに上りました。千九百六十一年の合計中二〇、一一五・〇〇ドルはＬＤＳ軍人によるものであり四、五七一・四七ドルは各支部（日本、韓国、沖縄）によるものであります。これを千九百六十年にくらべると、千九百六十年の募金合計は一六、七三九・五二ドルであって、その内ＬＤＳ軍人によるものが一二、八三四・五九ドル、各支部（日本、韓国、沖縄）によるものが三、九〇四・九三ドルであります。これまで私たちがひじょうに必要として居りました待望の建築計画が今年はもう始まることが期待されますから、来る数年間にはすべての支部に教会堂を建てることができる見こみであります。

今三十三の支部に建てる教会堂の費用を内輪に見つもってみましても、各支部の土地建物に要する費用をそれぞれ約一五〇、〇〇〇ドルとして、全体では五、〇〇〇、〇〇〇ドルに近い金額となります。これに対し、少くとも二十パーセントすなわち一、〇〇〇・〇〇〇ドルは日本、韓国および沖縄で募らなくてはなりません。従いまして、今年もまた新しく建築資金の募集が強調されていますから日本人韓国人沖縄人アメリカ人であることを問わず、誰もみな多大の寄附をするようにねがっています。自分の受け持ちを調達するためには、誰も彼もが本当に金銭的のぎせいを払わなくてはなりません。それでありますから、会員は一人のこらずこの好機会をとらえて、まことの神の教会をいよいよ強くすることに参加して下さるのを望む次第であります。

千九百六十一年は北部極東伝道部の教会員にとってまことに良い年でありました。それでありますから、千九百六十二年は一層良い年であるとさえ思われます。私は昨年の成功に貢献して下さった一人一人の会員に心から感謝をしたいと思います。そして今年中には一層大きな進歩があることを固く信じて待ち望んでおります。

質疑応答

解答者　ジョセフ・フィールディング・スミス長老

「エデンの園」はどこにあるか

質問。

「私はステーキ部で働いている宣教師でありますが、最近ある求道者から次のような質問を受けました。

「あなたの教えを聞いていると矛盾をしているところがあります。聖書には「エデンの園」が東半球（アジヤ）にあったと言ってあるのに、末日聖徒は「エデンの園」が西半球（アメリカ）にあったと言っています。このちがいをどう説明して下さいます？

「私はその求道者にもっとしらべてみてお答えしますと返事をしておきました。あなたはもちろん聖書の創世記第二章十一―十四節の聖句をよくご存じですが、私ができるだけしらべた結果によると、この求道者を満足させるに足るはっきりした言葉は何もみつかりませんでした。私たちの教会の教義を証明することのできる地理学上の論拠がありますでしょうか、お答え下さるなら有難うございます。

解答。

聖書に「エデンの園」は東半球（アジヤ）にあったと言ってあるということは誤りである。事実、「エデンの園」はここにあったと、はっきり指摘のできる場所はどこにもない。アダムの時代からこのかた、地球の表面には大変動がおきている。末日聖徒も、主なる神の啓示がなかったなら知らなかったであろう。このような知識は人間の能力を超越している能力であって、主なる神の啓示がなければ所在の地点が知れるものではない。不思議なことに「エデンの園」はノアの箱舟がとどまったアララット山にほど近いメソポタミヤの平原にあったと一般に考えられている。この考えは、聖書ならびに今わかっているいろいろな事実と矛盾どうちゃくしている考えである。この矛盾しているところは指摘することができよう。ノアの時に大洪水があったが、その大洪水が起ったわけは、聖書に言ってある通り、地上の悪がひじょうに大きくなったので、箱舟で生命を助かった者たちを除き、全人類を亡ぼして地球上から悪を一掃するためであった。大洪水が起ったもう一つのわけは、わが教会に下った啓示の言葉にある通り、地球は人間と同じようにバプテスマを受け水によって清められる必要があったからである。聖書によると、主なる神は「大いなる淵の源」をことごとく破り「天の窓」を開いて全地がすっぽりかぶるほど雨を降らせたもうた。末日聖徒はこれが地球のバプテスマであったと信じている。次に一つ二つ引用する文はこの点をくわしく説明している。すなわち、「地球を清めるために定められた最初の儀式はすなわち水によるバプテスマであった。地球は水の下に沈められ、地表にあったあらゆる罪深いものは一掃された。地球が新しく生れた子供のように大洪水から出てきたときそれは罪汚れがなくなって新しい生命を得て立ち上った。それは大水の中から生れ出た第二の生誕であった、すなわち新しい世界が最初の創造のときと同じ清浄さをまとって古い廃墟から生れ出たのであった（オルソンプラット長老講話集第一巻三三三頁「英文」参照）。

「現在の状態に於ける地球は、聖くされた人々の住居に適していない。しかし地球は創造の律法に従い、かつて水のバプテスマを受けた。将来火と聖霊のバプテスマを受けるにちがいない。かくしてやがて忠実なる者たちの住むべき所として備えられるであろう」（ブリガム・ヤング大管長講話録八〇三十三「英文」参照）。

ノアがその箱舟を造った正確な場所は不明であるが、われわれは山々が水にかくれてしまうまでそれが水の上にただよっていたことを知っている。その箱舟は建造された場所からひじょうに遠いところまで動いて行ったにちがいない。それはその箱舟がじっと同じところにとまっていたわけではなかろうし、その上アルメニヤの上部にあるアララット山にとどまるまで百五十日間は少くとも水の上にただよっていたであろうからである。さて、その箱舟は大洪水にともなった烈しい風のために吹きながされたにちがいない。箱舟がとどまった所の国から一つの川が流れ出た。この川はユーフラテスと名づけられているが、「エデンの園」から流れ出ていたユーフラテス川（旧約聖書二〇十四ではユフラテ）とは全く別の川である。ノアや昔の人が、自分の知っていた川の名をほかの川につけるのは全く

自然なことであったが、この川は別の方角に向って流れている。われわれはユタ湖から流れ出て大塩湖（グレート・ソルトレーク）へ注ぐ川をヨルダン川と言っているが、それであるからと言ってこの川がパレスチナにある川であるとは言えない。モルモンの開拓者たちがこの川をヨルダン川と命名したのは最も自然なことではあるまいか。

また、われわれが今住んでいる地球が、エデンの時代からこのかた多くの大変動を受けていることも忘れてはならない。聖書には、太初すべての水は一つところに集っていたと言ってある。それであるから、地は一つの場所であったにちがいない（創世記一〇九参照）。アダムの時代には東半球も西半球もなかった。地球の表面に起った最も大きな変動が、聖書の中にほんのちょっとしか記載してないのはひじょうに不思議であるが、それにもかかわらず事実はそうである。たとえば創世記第十章二十五節には、

「エベルにふたりの子が生れた。そのひとりの名をペレグと言った。彼の時代に地が分れたからである」（欽定訳聖書、創世記十〇二十五参照）とある。

「註」。日本語聖書、一九五五年改訳には「エベルにふたりの子が生れた。そのひとりの名をペレグと言った。これは彼の代に地の民が分れたからである」とあり、改訳以前の聖書には「エベルに二人の子生れたり一人の名をペレグ（分れ）という其は彼の代に邦国分れたればなり」としてある。

これは、この地球上に起った最も大きな出来事の一つをほんのちょっとしか言っていないが、それにもかかわらずそれが実際に起ったということは科学上証明されている。太初地表はひじょうに広い一つの大陸であったが、それが後になって二つに分れ東西の両大陸ができた。しかし、これはアダムの時代からずっと後のことであった。

インマニュエル・ヴェリコフスキー博士はその著書の中でこの大事件について次のような説明をしている。

「千九百二十年以来論議されている大陸浮動説は南米ブラジルとアフリカの海岸線の形がよく似ているところから口火が切られたのである。この相似に加うるに初期時代の動物群と植物群にも相似があるということは、チロルのアルフレッド・ウェグナー教授に、初期の地質時代には南アメリカとアフリカの二大陸が一つの大陸であったのではなかろうかということを考えさせた。しかし、この動物や植物に相似の点が見られるということは世界各地にもあることであるから、ウェグナー教授はすべての大陸と島々は、最初一つの大陸であったが、いろいろの地質時代に分れ浮動して出きたのであると推論を下したのである。現在なおこの大陸浮動説を認めていない人々は、動物や植物の間に見られる相似の現象を「陸地間のかけはし」すなわち初期の時代に大陸と大陸または大陸と島がつながっていたということで説明しようとしている」。

もちろん以上の説明は「エデンの園」とほとんど直接の関係はないが、アダムの時代からこのかた、地球の表面に大変動が起っていることをはっきり示している。

もう一人の科学者レジノルド・アルウァース・ディリーは「動く大陸」という大作の中で、これまで地球の表面には陸地の大移動が行われていることを論じ、三つの図面をかかげてかって昔は地球上に一つの陸地しかなかったこと、現在いくつにも分かれている大陸や島々は将来再び一つの大陸になる可能性があること、また現在の大陸が「浮動」して一つ一つに分れたことなどを示している。今、東大陸と西大陸の地図を手にとってよくしらべてみると、現在この二つの大陸を合わせようとしたら旨く適合するだろうということがわかるであろう。そういうわけで、かって昔地が分れたことがあるように、将来地が回復されて元の形にかえり、すべての地がただ一つの所となる日がくるにちがいない。

聖書の中には、このように大陸と島々が一つになるという予言が多く見えている。次に二つ三つその例を挙げると、イザヤには、

「『このことはわたしにはノアの時のようだ。わたしはノアの洪水を再び地にあふれさせないと誓ったが、そのように、わたしは再びあなたを怒らない、再びあなたを責めないと誓った。山は移り、丘は動いても、わがいつくしみはあなたから移ることなく、平安を与えるわが契約は動くことがない』とあなたをあわれまれる主は言われる」(イザヤ五十四〇九—十)とあり、エゼキエルには、

「わたしは、わがねたみと燃えたつ怒りとをもって言う。その日には必ずイスラエルの地に大いなる震動があり、海の魚、空の鳥、野の獣、すべての地にはうもの、地のおもてにあるすべての人は、わが前にうち震える。また山々はくずれ、がけは落ち、すべての石がきは地に倒れる」(エゼキエル書三十八〇十九—二十参照)とあり、また黙示録には、

「島々はみな逃げ去り、山々は見えなくなった」(黙示録十六〇二十参照)とある。

それからまた主なる神は、予言者ジョセフ・スミスに聖書と全く一致している御言葉をたまわった、すなわち、

「彼はシオンより声を出し、エルサレムより語り、その声あらゆる人々の中に聞ゆべし。またその声、多くの河の響大いなるいかづちの響の如くにして、その響は山々を崩し谷々を埋むべし。彼はいと深き淵に命じて北方の国々に退かしめ、島々をして一つの地にならしめん。而して、エルサレムの地とシオンの地とは旧の所に復り地球はそのいまだ分れざりし前の時代の如くにあらん」(教義と聖約百三十三〇二十一—二十四参照)。

われわれは、主なる神が啓示をもって「エデンの園」が在った場所を示したまい、また地が元の状態にあらたまった時、新エルサレムの大いなる都はエデンのあった場所に在るにちがいないことを知らせたもうたから、予言者ジョセフ・スミスに感謝をしなくてはならない。

「註」ジョセフ・フィールディング・スミス長老著「福音の教義」第三巻七十四頁「英文」参照のこと。(インプルーヴメントエラ誌一九六一年四月号)

エンサインローレル教科課程

そして神のみこころによって、人間の命はかれらが肉体に在る中に悔改めをするようにと延された。それであるから、かれらの人生は試しの生涯となり、そのつづく長さは主なる神が人間に与えたもうた命令によって延された。神は全人類に、かれらはその始祖が罪を犯したために堕落したことを知らせたまい、すべての人は皆悔い改めねばならぬと命じたもうた。

ニーファイ第二書　二〇二十一

教会の会員である大ていの若い人々がいま直面している問題の一つは、自分の判断が誤まっていたり、自分の弱さのためにまちがった考えや行いが自分の生き方の中にあらわれるとき、どうしたらよいかということであります。人はどうしたらまちがいを正すことができるか。人は悪い考えや行いの結果として起る罪悪感にどうしたら勝つことができる

誰でも生涯のうちにはまちがった行いやまちがった考えを認める場合がある。それであるから、過ちをなおして回復する、すなわち悔い改める必要は一人のこらずにあるのである。人はどのようにして罪の悔改めに着手するであろうか。罪を赦されるというこの神聖な過程に、教会は一人一人を助けるためどのような援助の手をのばすのであろうか。

……問題点

か。人はどのようにして、このさきまちがいをくり返さないようになるか。教会で話す人たちは、人々にその罪を悔い改めなさいと言うときどんな意味で言っているのか。

これらは若い人々にとって今さしせまっている問題でありますから、これらを適切に解決することは若い人々を教会へ結びつける強いきづなの一つになります。若い人々の出逢うなやみはひじょうに現実的ななやみであり、それから起る心の動揺はおそるべきものであります。宗教についての態度は一生涯つずくものでありますが、これは若いころにいくつもの道徳上の問題に出逢っているうちに形づくられます。ところがざんねんなことに、不適当なまたは不正確な知識がこの問題についての積極的な反応と満足な処理とをひじょうにしばしばさまたげているのであります。

いわゆる比較的ハイティーンの人々の多くが、規則的な教会活動から脱落してゆくのを見るのはめずらしくありません。このようにしだいに教会活動をしなくなるもっとも有力な原因をしらべてみると、私たちが気をつけて考えなければならないつぎの三つの事がらが出てきます。すなわち㈠前よりもいろいろな面に多くの活動をするようになったために、これまでのように教会に興味がなくなった。㈡新しい交際ができたために教会へ出るよりも教会から離れるようになった。㈢福音の教えに一致しない自分の行動のために教会に居るのが愉快でなくなった、の三つであります。

私たちが懸念するのは、これらの言いわけが論理上正しいかどうかではなくて、これらがじっさい若い人たちの心の中にあるということであります。この三つのうちの㈠と㈡とは、一般にこのレッスンのほかの所で論じてありますが、㈢は私たちが悔改めの原則について考えることに関連してとくに興味があります。

私たちの教会の若い人々の多くが、まちがった考えやまちがった行いが自分にあるという罪悪感のために、またこれを確認するような数々の証拠もあることですが、教会へ出席しないということは事実であります。そこで、すべての活潑な末日聖徒は、ほんとうの悔改めをした結果得られる罪の赦しという「生命を与える力」を実際に教える責任があるのであります。その上に、この罪を赦して「回復する力」は教会の中にあるのであって、教

会を離れてはないことを明らかにせねばなりません。

私たちのもっている善悪の意識は、多種多様のけいけんを通して生ずるものであります。私たちの大部分は、行いの道しるべである或る基準を教える家庭の中でこのけいけんを始めています。それから、私たちが教会のプログラムに参加するとき、私たちは「主なる神」の律法を教わってこれを守らなければなりませんから、これらの律法をまだ小さいころに教えられても、それらは私たちにひじょうに大きな影響を与えます。大ていの若い人々は、いわゆるローティーンの年ごろにほかの人々の行いに対してひじょうに鋭敏になります。或る人たちは、年上の人々や友だちの癖の中にたびたびあらわれる言葉と行いの不一致を見て心に衝撃をおぼえます。若い人々が自分の犯したあやまちに対する良心のとがめをもっともするどく感ずるのは、このようにひじょうに敏感な時代のうちです。それでありますから、悔改めに対する福音の計画の応用をぜひ正しく理解しなくてはなりません。

私たちはけいけんと真理の理解を背景にして、自分の行動や他の人々の行動を判断する根拠となる生活上のおきてを立てております。このとき、私たちの判断があやまっていたり乱れていないために、私たちは福音の標準を根拠にしなくてはなりません。私たちが真の標準にてらしてまちがった行いをしたという結論に達したときには、私たちはあやまちにうちかつ処置を始めるための、またその結果生ずる効果を得るためのたいせつな出発点に立っているのであります。自分で自分が正しいとする処置をとることによって、数知れぬほど多くの人々は、自分のあやまちを認めることによって得られる人格形成の意義ある転機を失っているのであります。

人はひじょうに小さい罪を知らずに犯します。しかし、大ていの罪は実行する前に考えとしてあらわれ、むしろ気をつけて計画されます。それでありますから、人はまず健全な考えをもたなければいけないということが強く言われます。大ていの戦いは、つぎの行動に移る結論に行くまでの考え方の中で勝負がきまってしまうからであります。人は、大たいに於いてある事をしたいと思うからその事をするのであります。それでありますから、私たちはある事の本当の価値を認めているかどうかということが当然問題になります。もし私たちが相かわらず悪い決定をして人をきずつけるような行いをするならば、私たちは自分の判断にもっとよい導きを与えるような人生の目的を新しく立てなければなりません。これを「考えに関する改善処置」と名づけることができるでしょう。私たちは自分の行いを正しいとするいろいろなりくつを持っているために、これまでまちがった行いをし、またもっとつずけて行くと考えられます。また福音の標準を認めるから自分の行いのまちがっていることが解るのだと考えられます。ところで、人は悔い改めをするとき次に何をするでしょうか。

主なる神は、まちがった行いをしていたことを認めるときに起る感情を「神聖な悲しみ」と言いあらわしておいでになります。多くの人は、正しくない行いをしても、とくべつ悲しくも思わないし後悔もしておりません、これがすぐに解るのは、ことさら悪いことを

する人々には悪い事をして「気持がいい」と思ったり「どうだ偉いだろう」といばる感じが見られるのが普通であるからであります。「けんそん」の精神こそ、いろいろの欠点を征服したいと思うまじめな願いに必らず伴う精神であります。このような精神をもつ人は慈悲深い天の御父から必らずよいむくいを受けるにちがいがありません。それでありますから、私たちが罪を犯したときには「神聖な悲しみ」を感じることが必要であります。

私たちの多くは、小さい時に父母から「おしおき」（悪いことをしたために）を受けた記憶を持っております。おしりをぶたれたり叱られたりするよりもっとつらいのは、悪いことをしてすみませんと誰れ彼れのところへ行ってあやまっておいでと言われることです。おとなの人たちはこれを「屈辱的な経験」だと言っています。子供にはいつもこうした「おしおき」が与えられるのでありますが、その教訓はほかの方法でするよりもはるかに深く肝に銘ずるものであります。私たちはこのような処置がとられた思い出をよく味わってみる必要があります。なぜならば、神の前で本当に悔い改めることには「つぐない」の原則、すなわちあやまちを出来得るかぎりもとに直すという原則が含まれているからです。実際に於てこれがどのように行われるかは、結局時と場合を考えに入れることになります。こうした必要があることを考えてみますと、主なる神が或る罪をほかの罪よりもっと重大であると見ておいでになるわけがすぐにわかります。たとえて言うと、殺人の罪を犯した者は、いくら悔い改めても殺した人間のいのちをもとに戻すことはできません。もう一つ例をとると、他人の貞操を奪った性的犯罪は、いくら悔い改めても完全に「つぐない」をすることはできません。このように、今悪事の一覧表を全部見わたすと、「つぐない」をするにもおのずから難易のあることがわかるでしょう。人は正しくない行動にとりかかろうとする前に、ちょっとおちついて自分自身に「これをもとに直すとしたら何をしなくてはならぬだろうか」と問いかけるがよいと思います。

私たちはこのようにむつかしい入り組んだ問題を解く工夫を自分一人でしなくてはならぬわけではありません。たいていの場合、私たちは考え深い両親からすぐに勧告を得ることができます。私たちはその気になればいつでも支部長そのほか教会の勧告者たちから適切な勧告を得ることができ、またそのようにしなさいと言われています。終りに、私たちは主なる神に親しく一人で祈りを捧げることによって多くの霊感と導きとを必らず期待することができるでしょう。私たちは本当の悔改めをするに当って、自分の犯したあやまちを力を尽してもとに直す努力をしなくてはなりません。

私たちは自分の犯した罪を悲しみ、それについての解決法を聞き神に祈りを捧げたら、つぎは何を為すべきかという段階であります。完全な悔改めの中には、あやまちを捨ててこれからそれに近づかないという断乎とした永続的の決意が入っています。このようにしてこそ、私たちは自分の犯した罪に対する主なる神の赦しを期待することができ、新しい生活へ向上してゆくことができるのであります。主なる神は悔改めという祝福を軽んじてはならないと仰せにな

りました。罪を悔い改めた後に再び罪を重ねる人々は、もっと新しい罪を持つばかりでなく前の罪の結果を再び頭上に招くのであります。すなわちその人たちは、古い罪と新しい罪との両方の重荷を負うことになります。このような原則を知れば、「連続して罪を犯す」ことを心に抱く人たちも充分意気をそがれるにちがいありません。

主なる神は「罪の告白」という法則を新しく啓示して、悔改めをするうちの大切な段階をお示しになりました。「教義と聖約」の第五十八章には「見よ、およそすでにその罪を悔い改めたる者は赦され、主なるわれもはやこれを忘るべし。人罪を悔い改めしや否やは見よ、彼は自らこれを告白しその罪を捨つべければ、その悔い改めたることはこれによりて知るを得べし」とあります。罪の告白をどんな風にまたどのような時に為すべきかは、現在悔い改めているあやまちをもとにしてきめなくてはなりません。教会の歴史を見ると教会の幹部が教会に対して罪を犯したときには、主なる神が下したもうた悔改めの律法に従い、教会員の前でその罪を告白しなければなりません。子供たちと両親、支部の会員と支部長などの間には、それぞれにふさわしい「罪の告白」が行われることがあるでしょう。各々の場合、主なる神に捧げる祈りを通して自分の犯した罪を包みかくさず正直に告白することが、悔改めを現実にすることに向って前進するのに大切なことは言うまでもないことであります。

悔改めの仕上げとも言うべき大切なことは、信仰と忠実によって律法の要求を満足させたとき、私たちは犯した罪を赦されるという保証を主なる神から受けることを期待することができるという、神のたしかな約束であります。この祝福がないならば、前に大体を述べた段階を通じて辛抱する者はほとんどないでありましょう。教会には悔改めの完成した人のあずかることのできる美しい神聖な場合があって、これによってその人は主なる神に近づくことができるのであります。多くの人はそれを平凡な事と考えていますが、本当のところそれは「クリスチャンの礼拝」の真髄ともいうべきものであります。今申した神聖な行いとは、すなわち神の前に出る価値のある者となって聖餐をいただくことであります。罪の赦しを求めるとき、人はバプテスマのときに神と結んだ誓約を再び「あらたにする」気になります。そして神の前に出る価値のある者となって聖餐をいただくときに大きな祝福が得られるのであります。心から罪を悔い改め、へりくだった悔悟の念をもって主なる神の前に出る人にとって、次の聖句くらい意味の深いまた肝に銘ずる聖句はありません。

「また喜びて御子の御名を受け、御子を常に忘れず、またその下したまえる誡命を守ることを永遠の父なる神の御前に証明し、かくして御子の「みたま」常に一同と共にましますよう……アーメン」（教義と聖約二十〇七十七参照）。

赦しを与えたもう主なる神の慈悲によって罪悪感のなくなること、罪の重荷がとり去られることは筆紙の表わし得ないすばらしい出来事であります。これによって、こそこそと人の顔をぬすみ見たり、罪人のように伏目で歩くことはなくなって、喜びとほがらかさと最もおそろしい束縛からの解放が得られるのであります。イエ

ス・キリストの福音計画に従って本当に悔改めをした者よ、「神の王国」のすぐれたものにあずかるため「安心して上を見なさい」。

「教授の手助け」

一、レッスンの目的

悔改めの意義と目的とについて生徒たちにはっきりした知識を与え、同時にこの悔改めの原則が日常の生活で効果的に行われる方法をはっきりと知らせること。

二、教授の方法（提案）

(イ)レッスンの始めに聖句を読んで考察する。

(ロ)人々が自分の誤まりを正しいとするいろいろな方法を列挙する。

(ハ)人がその犯した罪に対して「神聖な悲しみ」を感ずる、ということの意味を論ずる。

三、生徒たちの参加に対する提案

(イ)多くの人々は、福音の原則を実行しないようになると教会や教会の役員のあら探しをするようになるのはなぜか。

(ロ)人は始めて誤まちをする幼いころに、宗教に対する態度がきまってしまうことがあるのはなぜか。

(ハ)人々はどのようにすれば悔改めをする能力をあらわして一生涯正しく生活したいというねがいを常にもつことができるか。

四、生徒たちの応用に対する提案

(イ)若い人々は、どうしたら彼らを教会活動から追いやり、悔い改めたいと思うねがいをうち破る強い罪悪感を征服することができるか。

(ロ)真の悔改めをした証拠は何々か。

(ハ)自分の弱点をなくしたいと思っている人々に、われわれは何をしてやらねばならぬか。

(ニ)今までにあやまちを犯した人であって、悔改めをするために定められた計画をやりとげる力はないけれども、今よりも良い生活を送りたいと思っている人にはどのような助けを与えることができるか。

(ホ)善悪を区別する思考力はどうして得られるか。

(ヘ)十字架にかかりたもうた「救い主」のぎせいは、あやまちを許す気持ちを得るために、どんな助けを与えることができるか。

最大の満足と進歩とを得るようにわれわれの生活管理を最もよく行う方法を知るために、われわれは天にまします父なる神に創られた結果、どのように構成されているかを理解しなくてはならない。この点に於ては「霊としてのわれ」と「肉としてのわれ」およびこの二つの間に存在する重要な関係とを認めることが最も根本的なことである。　……問題点

エンサインローレルル教科課程

肉の幕屋

あなたがたは神の宮であって、神のみたまが自分のうちに宿っていることを知らないのか。もし人が神の宮を破壊するなら、神はその人を滅ぼすであろう。なぜなら神の宮は聖なるものであり、そして、あなたがたはその宮なのだからである。

コリント前書三〇十六・十七

どの末日聖徒にとっても、私たちの教会が肉体を正しく尊びたいせつにすることに高い価値を置いていることは全くよく知られている事実であります。ところがほかの人々は私たちほど容易にこれを理解もしなければ認識もしておりません。健康と清い生活が宗教に

対してもっている本当の関係は、予言者ジョセフ・スミスによって「完全な福音」が回復されて、はじめて明らかになりました。それでありますから、私たちは「福音の計画」の中にあるこの独特な面を、明瞭にまた人をなっとくさせる力を以て発表するようになることがきわめてたいせつであります。もし私たちが、自ら進んでこの教えを日々の生活で実行して示すなら、これほど見事に人に教えるのに役立つ原則はほとんどありません。

清い生活の成果は、文句よりもはるかに雄弁であって一目瞭然であります。

「人間の体」という状態をもう一度ふり返って考えてみるためにまず最初に、人間がこの地球上にあらわれた目的をしらべてみましょう。末日の啓示によりますと、死なねばならぬ肉体をもってこの地球上に生をいとなむことは、もし人間のもっている「永遠の霊」を進歩させなくてはならないなら必要なことでした。人間の霊のために、宿るべき家もしくは「肉の幕屋」をつくる仕事は「創造の日」の最後に置かれました。ここで、人間が地上で新しい生活をするために、神がおつくりになった計画の中の最後をかざる業が行われたのであります。主なる神が人間の「肉の幕屋」をおつくりになったとき、そのままではまだ不完全でありました。そこで神は「先在の世」で神から生まれた「人間の霊」をその中に吹き入れたまい、このようにして、ついに人間の「肉の幕屋」は「神の霊」を宿して「生ける霊の結合体」となり、完全な自由意志をもちまた神のようになる完全な可能性をもつ者となったのであります。

このことを正しく解るように教えるに当って、人間は一面に於て「肉の体」をもち他の面に於て「霊の体」をもっているという区別を知ることくらい大切なことはありません。私たちの内部に、肉と霊の二つの面がたがいに関係し合っているという事実は、私たちが人格を形ちづくり、ますます進歩をするようにはげましを受ける際に、私たちに働らきかける大きな力を得る鍵であります。人間存在の基本的特性を理解し、それからその特性に関する変らない「神の律法」を発見するならば、人生に於けるもっとも根本の問題について会得するようになるにちがいありません。

私たちは小さいころから、自分のもっている肉体の性質を知るようになります。飢えや、こころよい感じや、苦痛などのあらわれによって、私たちは肉体のはたらきを理解しまたその意味がわかります。私たちは学校やそのほかのところで、肉体やそのはたらきについて多くの知識を得る機会がありますから、私たちは生きてゆくに従って一般に健康の法則について十分な理解を得るようになります。休息、正しい食事、および適当な運動が、肉体の正しい管理にとって根本的なものであることは十分によく理解されていて議論の余地はありません。私たちが、自分のもっている知識をもって良い生活を行おうとするに当って、大ていの人が困難を感ずるのは意志の力と目的とが問題になるときです。

前に私は、「肉の体」と「霊の体」とがたがいに関係し合っているということを申しました。私たちが自分の「肉の体」についてすることは、善かれ悪しかれ、私たちの内にある「霊の体」に自働的

に作用するのであります。これと逆に、私たちが「霊の体」のためになることをすれば、それは何でも「肉の体」にはっきりと影響を及ぼさなくてはならないのであります。こういうわけで、私たちの教会は、霊に関することはもちろん、肉体の管理についても心にかけているのであります。これはイエス・キリストの真の福音の中にある著しい特色のある教義の一つであります。

最後に、私たちがどれほど勝利の人生を送ったかは、霊が肉体をどれほど聡明に支配したかの程度によって測られると考えることができます。私たちの「霊としてのわれ」にはたらきかける、主なる神の福音の光に充分照らされているならば、真の末日聖徒にとってその生活が平凡な生活または「みたま」の導きを受けない生活であってよいと言うわけは少しもありません。霊について充分に明るくないならば、此世の生活と未来の生活とが忠実な人々に与える多くのものを受けることができないにちがいありません。重ねて申しますと、回復された福音を充分に知っていることは、完全な幸福を得るためになくてならないことであります。

霊と肉との間に存在する支配と命令の微妙な関係を失わせるものは何であっても、主なる神から正しい罰を招くはずであります。麻酔性や刺戟性のある飲み物食べ物は確かにこのような作用をもっていますから、末日聖徒はこれらを用いてはならないと教会から教えられています。肉体をいつも正しい試験に合格させておくという問題は、大ていの人にとって、すべての能力を充分具えていてもなお完全に征服し得ない問題であります。人間に警告を与え、欲をおさえ、物事を考えさせる役に立つ微妙な霊の力をゆがめたり、弱めたり、または刺戟しすぎたりすることは、肉に関するわざわいを求めることであって、それがまた連鎖反応を起して霊のわざわいとなるのであります。世の人々が、抑制されない激情と欲望に由来するおそるべき極端なことをするために自分の肉の支配を投げ出すとき、その人々に何が起るかといういたるところにある数々の例を見ればたくさんであります。人は心にたづなをつけないと、破壊しきずつけ、ついに身を亡ぼしてしまいます。

肉体を正しく尊び大切にするというこの問題には、まだもう一つ肝心な面があります。克己の徳は、意志の力を習慣的に働かせることによって得られます。私たちは悪の圧力に対抗して、しゅびよくこれに抵抗することができるたびに力がつきます。私たちがつぎに悪と出逢って戦うとき、私たちは前よりも力に余裕のあることと一層強い確信のあることを知るのであります。善悪を識別する力と共に、私たちはこの方法により、ついに肉のもつあらゆる気ままな性癖をおさえるようになることができます。一般に、これは一挙に完成することはできないけれども、問題を一つ一つ処理することによって完成を見るのであります。人生は終りまで勉強が必要でありますから、また次は何を勉強するか前以てわかることがごく稀れでありますから、私たちは正しい原則をあてはめることをおぼえて、新しい試験にのぞむ度に力をふるい起さなくてはなりません。この戦いに於ては、どの持ち場で得た力であっても、それはあらゆる持ち場で私たちに助けを与えます。私たちが正しいことをする力ばかり

でなく、もっとたいせつなことですが、正しいことをする意志も肉を征服する霊の勝利の一つ一つと組み合わさっているのです。

そこで、肉の管理という問題は一時の気まぐれや流行の問題ではなくて、むしろ神の与えたもうた原則であるということであります私たちが、福音の光に照らして知恵というものを解釈するとき、流行とか社交性とかいうことは問題点ではありません。一つの民として、末日聖徒は天にまします親切な父なる神に対し、これらのきわめてたいせつな事にそのみこころと意志とをあらわして下さったことを有難いと思わなくてはなりません。私たちは誰でもみな、肉体の欲を英知ある霊の意志に従わせることの中に含まれているいろいろの原則が、「今聖徒と呼ばれ、或いは聖徒と呼ばれ得る者にして虚弱なる者、およびすべての聖徒中最も虚弱なる者」の能力に合わせて採用されていることを知って、勇気を出すことができます。主なる神は「教義と聖約」第八十九章の中でそのようにはっきり言っておいでになります。いろいろな人が、自分の力がとうてい及ばないほどの強い誘惑を受けたと往々言いわけを申しますが、その中には何らの真実もありません。本当のところこのような人は、止まれと言う能力、もしくは誘惑に背をむける能力がよろめくほど誘惑に負けたということであります。誘惑はもてあそぶものではありません、普通「どこまでやれるかやってみろ」という勝負の中に勝利者が現われるのであります。私たちのまわりには、肉体を濫用する誘惑がいろいろの程度で度々起っております。多くの人々は、自分の弱点を知っておりながら、自分の道徳的の力を強めるというよりはむしろ弱めるふんい気の中へ相かわらず入って行きます。そのことが「粋なこと」もしくは社交上や商売上の必要をよそおって行われても、それに歩調を合わせる人はみなおそろしいぎせいを払わされます。これに反して、健全な環境の中で養われる交際や活動からは幸福や文化的の教養や高尚な目的が生ずるのであります。しかしながら、不道徳な刺戟を受けるときに、私たちは自分の内にある最も劣等なものを呼び出すのであります。また好ましい環境の中にあるときには、一般に私たちは表わさなければならない最もすぐれた美徳の呼びかけにも応ずるのであります。今まで申しました通り、どんな経験や交際を選ぶべきかは明瞭でありまた容易に区別ができます。このことを私たちは頭の中に画いて決しておろそかにしたり忘れたりしてはなりません。

良い生活をするための「神の設計」に服従することから生ずる結果の中で、おそらく最もこころよいものは心の平安でありましょう「霊の体」が正しく活気づけられ神のみこころに同調したときには「肉の体」を永遠の真理の呼びかけに応ずる状態に導き、その結果あらわれる美しさとこころよい調子の共同作用とはもっとも壮厳な「霊肉一致」の状態であります。これをもっている人々は、人生の荒波をもっとも少い動揺でわたってゆきます。これらの人々は、おちつきと安定とを示して、ほかの人々に力と信仰とを注ぎこむ力をもっています。これらの人々は、秩序整然とした考えと行いを具えているキリストのような性質を受けています。この「病める世の中」は、うろたえている人々に混乱の中から平安へおもむく道を示すこ

とのできる「心の医者」がたくさん出ることを必要としております。

世の中の人は、末日聖徒である多数の青年男女が、清潔で健全な生き方の価値を教え導くことを必要としております。もしも私たちの生活の模範が努力して見ならうみりょくがあり価値があるならば、ひじょうな好意を以て聞いてもらう機会があるにちがいありません。私たちの「肉の幕屋」は、私たちの内にある「霊の生活」をもっとも力強くあらわすものになります。秩序正しい、中庸を得た清潔且つ適切な共同作用が「霊の体」と共に行われているとき、私たちの肉体は主イエス・キリストの福音にあらわれている真理と力を証しする生きた「記念像」となるのであります。

「教授の手助け」

一、レッスンの目的

生徒たちが、道徳的な肉体すなわち清く保ち、正しく理解し、賢明に用いられる肉体と、喜びと元気と力に満ちた「霊的の生活」との間にある直接の関係を理解するのを助ける。

二、教授の方法（提案）

(イ)レッスンの始めに聖句を読んで、その意味を考察するようクラスの生徒に助けを与える。

(ロ)「私は福音の原則の命ずるところに従って此世の生活を送ることができるか」という問題について簡単に「座談型式の討論」を行え。

三、生徒たちの参加に対する提案

(イ)自分の肉体を正しく用いることを覚えないで、いつも肉体に「使われている」人たちがあるのはなぜか。

(ロ)肉体は霊の要求に従わなくてはならないことを知っている人と、幸福は肉体だけの衝動を満足させるところにあると考えている人との人生の前途にはどんなちがいがあるか。

(ハ)麻酔性の飲み物は、私たちの霊の力と目的とをなぜ破壊するか

(四)生徒たちの応用に対する提案

(イ)「聖徒と呼ばれ得る者にして虚弱なる者、およびすべての聖徒中最も虚弱なる者」が正しく管理された生活を送る力があると思うか。なぜそれができるか。

(ロ)克己自制は次のこととどのようなつながりがあるか。

(一)人がレジャーの時間を使うに当り、(二)友人を選ぶに当り、(三)教会に出席するに当り、(四)いつも何かすることがあるとき、(五)いつもきまった祈りをするとき。（来週エンサインとローレルは一しょに集ります）。

支部だより

名古屋支部

●今月のバプテスマは次のとおり。
田中穂積、平林紀美子（二月四日）
高木かをる（二月十八日）

●二月八日M・I・Aバレンタイン、ダンス・パーティーは多数の出席者とともに開かれこの日にふさわしい遠山久子姉妹の心暖まる話にひかれ、なごやかな雰囲気の中に五組の兄弟姉妹のフロアショーによりパーティーの空気を盛り上げフォークダンスにソシャルダンスに老(?)も若きも心ゆくまで楽しんだ。

●今月の神権昇進者
執事、高橋克幸、教師、安藤修、柳田征史兄弟は西中央地方部大会において父柳田藤吉兄弟により長老に按手聖任されました。
（二月二十五日）

●二月十八日、系図委員会役員の変更。
解任、松浦美代子（第二副会長）野村里美（書記）任命第一副会長　松浦美代子、第二副会長　池田茂美、書記　中野清子。
なお会長高木冨五郎兄弟のもとに新しい役員により系図委員会は我々の先祖のために活潑に働くことになりました。

岡町支部

●バプテスマ、城戸慧子、江座真佐子、竹中和子、困島真理子、内野栄子、北村浩子、井上雪子、藤本進。

●神権昇進、祭司　上野山真杉、
執事　川西康裕、桑田忍、吉田次郎、水江三男、三井豊則、原裕二郎。

●一月七日に阪本弘支部長の長男誠さんが祝福を受けました。

●上野山支部長、西中央地方部第一副地方部長に任命される。

●岡町支部新支部長会
（支部長）阪本弘、（第一副支部長）中川宗幸、（第二副支部長）河村雄弘、（書記）伊川幸、

●MIA新組織
（会長）芦田房郎、講崎幸子、（書記）杉村裕一、（副会長）伊川幸、宮本美智子、（指揮）石崎セツ子、（オルガニスト）田中順子、（音楽指導者）田中順子、石崎セツ子、（演劇）川村悠美子、（絵画）北野千穂子、（ダンス）辻達夫。

三ノ宮支部

●昨年の十二月二十日、当支部において、前芝康夫兄弟、公子姉妹（旧姓、鍋沢姉妹）の結婚式が、山邑陽一支部長の司会のもとにとり行われ、めでたくモルモン新家庭が誕生し、一同心からの祝福を贈りました。

●今年に入ってからのバプテスマは、林田姉妹、北口姉妹、高津兄弟の三人でした。また、最近、当支部においては、求道者の数がめっきりと増え、椅子やスリッパーが足りなくなり、困るくらい(?)うれしい傾向です。宣教師、会員、求道者が、今後も一致団結して努力するならば、当支部はますます発展していくことでしょう。

●去る二月十七日、午後六時から、M・I・A主催の『たべよう会』が催されましたが、当

日は、六十名近くもの、全く予想以上の多くのお客様が出席したため、巨大な(?)ナベに山盛り放り込んでおいたにもかかわらず、関東だきのチクワやジャガ芋が足りなくなり、本当にテンテコ舞いの忙しさでした。パイナップルのかん詰めを開け、ミキサーに入れ、大の男が三人がかりで苦心してこしらえたジュースを飲んだあと、コーラス・ゲームなどをして楽しいひとときを共にしました。

(三月一日記)

仙台支部

暦のうえでは春であっても東北の春はまだまだという所です。

二月二十三日一人の兄弟のお姉さんが病気で入院中でしたが、病院においてバプテスマを受け、また二十五日には冷めたい川の水でバプテスマを受けた一人の兄弟が誕生しました。氏名は次の通りです。

新田悦子、中村一彦。

「見よ我は民に証し民を警めんため、汝らを遣わせり、さればその警めを受けしことあるすべての人は、その隣人を警むる責任あり、故に人々言逃れあることなし、罪は自らの頭上にあり」。

今月(二月)は私たち会員一人に与えられている大きな責任、隣人に福音を宣べ伝えることを特に強調されました。重なものをひろってみますと、十一日の聖餐会では監督宣教師大会に出席した支部長より旭川支部に於ける一ケ月に二十人の改宗者を得た話、又友人に教会に就いて話す方法を、夜の聖典研究会の前に十六ミリトーキーでマッケイ大管長のお話しと宣教師に紹介する方法を、十八日の聖餐会では求道者に教える方法、家庭集会のやり方を、二十四日の親睦会では入場券の代りに一人の友人と人参とポテトが必要でこの内一つでもかけたら出席することができません、二十五日の聖餐会ではヒンクレイ長老来日特別大会に出席した宣教師たちがテープに吹き込んで来た、アンドラス伝道部長、ヒンクレイ姉妹、ヒンクレイ長老のお話を聞きました。アンドラス伝道部長の声を聞きますと目の前にいらっしやるように感じます。恐れることなくイエス・キリストの福音を他の人に分け与えよ、と云うヒンクレイ長老の話によって末日に於ける私たち一人一人が宣教師であり伝道の大切なことを強く感じました。

札幌支部

●二月バプテスマの報告、
佐藤利子、石川豊子、砂川尚子、平尾玲子。
●二月三日、北山栄道兄弟と春枝姉妹の間に二人目のお子さんが誕生、智元と命名され、北山栄道兄弟が祝福なさいました。
●二月二十五日の夜、
末日聖徒イエス・キリスト教会の十二使徒ゴードン・B・ヒンクレイ長老御夫妻、ポール・C・アンドラス伝道部長御夫妻を、雪深い札幌の地に迎え特別大会が開催されました。

この大会の予定は、わずか三日前に発表されたにもかかわらず、百十数名の人々の出席を見、霊的な雰囲気の内に一時間半を過すことができました。

なにしろ急なことだったので、ヒンクレイ長老一行は、労働会館で会が開かれることを知らずさっそく札幌支部を訪れましたが、支部の建物は、真暗で猫の子一匹いなかったのです。会場では、いつ一行が姿を見せるかと心配しておりました。しかしこれも伝道部長の機転によってすぐ会場をみつけ出され、一同ホットするというエピソードがありました。

大会は、アンドラス姉妹、ヒンクレイ姉妹伝道部長のお話の順で進められ、最後に、児島克兄弟の通訳によってヒンクレイ長老の熱の入ったお話しがありました。

「教会はあなたがたを必要としており、あなたがたは、教会を必要としている。又、自分自身を信じ自分の持てる可能性を信じてください。そして、主の教えを疑いなく謙遜に受け入れて実行してみて下さい。そうすれば神の王国がこの地に栄えるでしょう。」このようなお話を熱心にくりかえされました。

東京南支部

二月にバプテスマを受けられた方は、次の通りです。

沼田　栄。　大森　道一。
森尾　澄子。　北沢　由信。

当支部の補助組織の役員が、次の通りにかわりました。

日曜学校　川島　貢。　小福田史男。
子供日曜学校　久本　綾子。
M・I・A　中村　善彦。　中川紀世子。
小高源太郎。　浅野　時夫。
系図委員会　津端　了治。

以上の通りです。

東京西支部

●バレンタイン・パーティー

二月十日、宣教師主催のバレンタイン・パーティーが開催されました。当日は、兄弟姉妹の良き勧誘によって、たくさんのお友だちを交え宣教師と共に楽しくすごしました。

宣教師の手できれいに飾られた室で、笑いにつつまれながら、ゲームをしたり、宣教師手製のおいしいハート型のクッキーなどを、十二使徒の名前合わせによって結ばれた、インスタント・バレンタインと一緒に、仲良くいただきました。日本ではちょっと見られないようなゲームに、一同青くなったり、赤くなったり。

最後に「コレハ、ミナサンニ、オミヤゲデス」と言って、おもむろに開かれた大きな袋の中からごろごろと出て来たのが、何と皆の靴。ハチの巣をつっついたような騒ぎで、靴のまわりにむらがって、皆自分の靴を捜すのに必死でした。何にしても、宣教師と会員、求道者との親睦に、大いに役に立った楽しいパーティーでした。

●バレンタイン・ダンスパーティー

二月十五日、MIAをかねてバレンタイン・ダンスパーティーが催されました。この日も多くの人が教会に集い、フォークダンス、ジルバ、ワルツ……と、それぞれ楽しく踊っていました。

特別プログラムとして、わが支部きってのハンサムで、数学と女性に強い、かの島田邦男兄弟の、二度とは見られないような素晴しい、「どじょうすくい」が披露されました。

また"硫球踊り"と言えばすぐ思い出す、日本舞踊のベテラン、藤本かほる姉妹の指導により、炭坑節を皆で踊りました。始めのうちは見ていた宣教師たちも、ついにうかれ出して、踊り始めましたが、その手つきはなかなか堂にいったもの、感心してしまいました。

楽しい雰囲気の中にも、モルモンとしてのパーティーにふさわしい和やかな会でした。

●今月の神権昇進者

執事　内山晴行　内山雅亘

●今月のバプテスマ

藤木彰　鈴木加乃子　船曳博子　三原一彦
和田富雄　門田典子

白き馬

渡部正雄

また見しに　視よ　白き馬あり
これに乗るもの弓を持ち、かつ冠冕を与えられ勝ちて復勝たんとて出でゆけり
ヨハネ黙示録六・二

私は数年前に〝白い馬〟というアカデミー賞を獲得したフランスの短篇映画を見て非常な感銘を受けた。この物語りには一言の聖句も引用されていなかったが私は作者が冒頭および末尾の聖句からヒントを得て作成したのではないかという気がするのである。

ストーリーは、南フランスの広原に野生の一群の馬が生存しているがその中の白馬がその頭首として君臨している、大勢の騎士たちは何とかしてこの素晴らしい白馬を生捕りにしようとするが、何度こころみても失敗する。馬の好きな一少年が、この白馬を自分の家に飼おうと決心して、沼地に水を飲みに来た白馬を見つけ、こつそりと忍びよって、その首に縄を投げる。見事にその投縄が首にかかり白馬は驚いて疾走する。少年はその縄につかまったまゝ曳きずられ、岩石や笹藪の荒地の上をまた水溜りの中を疾駆する白馬に曳きずり廻されて遂に気を失ってしまう、それでも少年はその手を離さなかった。やっと立止った白馬がしずかに後を振かえった時、意識をとり戻して、しずかに頭をもちあげた少年の視線とぴたりと合う物言わねど馬の眼と少年の眼とが一つの愛に結ばれる、〝よくここまでついて来た〟尊敬と憐憫にうるんだ馬の眼はこう言っている。

いかなる猛騎士にも屈しなかった白馬が、この少年の愛と忍耐に遂にその少年を自分の背に

のせる。少年は喜び勇んで我家に戻ってその白馬を厩につなぐ。これを知った騎士たちが少年の厩を襲ったので再び白馬は奔放する。そして林の中に入ったので騎士たちは四方からその林に放火して火攻めにする。これを知った少年は驚いて燃えさかる火焔の中にとび込んで、嬉し泣きにいななく白馬にまたがって炎の中から出て来る。これを見つけた騎士たちが少年に迫る。追いつめられて、河口の岸壁に立った少年は、白馬と共に大河の流れにとび込もうとする。騎士たちは大声で、河に入れば生命はない。戻れ戻れと叫ぶが、その叫び声を後に少年は白馬と共に争いの人間世界を捨て、永遠の天国へ、河より海へ、大海の波の彼方へと消えて行く。

私たちは白い衣を着てバプテスマを受けた時にこの縄を投じた少年と同様に主に結びつけられたのではなかったであろうか。私たちの前進にはまだまだ多くの岩地が沼地が或はまたいばらが生ひ繁っていることであろう。けれども私どもは主に結ばれている。主が私どもをひいてくださっているのだ、決してその手を離すべきではない。この少年と同様に、死んでもその手を離してはならない。

〝されど終まで耐へしのぶ者は救はるべし〟主はこう仰せられている。私たちは最後の審判の時に、主によくぞここまでついて来たと言われる者となりたい。

ちょうどこの〝白い馬〟と二本だてで、人類歴史始まって以来のあの地球最高峰エベレストの初登頂、七ミリの実写が上映されましたが、これも最後まで堪え忍んだ人間がついに永遠に聳ゆる大自然の白馬に乗る栄冠を克ち得たことにおいて、その軌を一にするものである。

今年は寅年ですが虎は古来、千里行って千里帰ると言われていますが、私共も主と共に千里の道を最後まで歩もうではありませんか。

〝勝を得る者は斯くのごとく
白き衣を著せられん〟

黙示録三・五

西中央地方部冬期大会報告

広島地区大会

大阪地区大会

柳　田　聴　子（名古屋）

西中央地方部冬期大会報告

冬期大会は先回聖任された鈴木地方部長のもとに計画準備され、再び二地区に分かれて開かれた。

広島地区大会（二月十七、十八日）

参加支部は岡山、広島、柳井、福岡の西支部、

MIA大会

広島支部地元会員の奉仕によって整えられた光道会館に於て、鈴木地方部長管理のもとに定刻六時半開始、松浦兄弟(福岡)司会、出席者全員のフォークダンスから始められた。

フロアショウとして福岡支部は長老達や支部長も交えてハワイのフラダンス、柳井支部は支部長や青い目の長老たちも共に浴衣に紅襷、花笠を持って花笠音頭を、広島支部はよく揃ってフォークダンスを披露した。福岡の長老達六人のコーラスも特別出演で美しいハーモニーを聞かせて下さった。その合間合間に全員のフォークダンス、ソシアルダンス等で六十五人ほどの少い人数ながら若さを発散させて楽しい宵を過ごした。

神権会

伝道部長さんは朝鮮の大会出席の為御不在ながら鈴木地方部長の管理、司会の下に、第一長老定員会長渡辺兄弟も出席され、有意義に過ごした。

扶助協会

引寺姉妹(広島)司会、柳田姉妹管理のもとに四十一人の姉妹達と共に開かれた。

カトリックの学校にいた旭野姉妹(岡山)の改宗、母のいない仏教の家庭に居た内山姉妹(柳井)の改宗等尊い体験を通しての証、また伝道の責任について、家族や友人を教会につれて来ても、無責任な言動が教会内にあってはその人は去ってしまうから、我々会員は常に義しい言動をする様にとの有意義なお話を月岡姉妹(福岡)から、また親子三代全員がモルモンの家庭にある柳田姉妹から伝道の為の忍耐と希望についての話があった。なお記録簿やレポートについて具体的な話があった。

一般大会

西原兄弟(広島)司会、教義と聖約三十三章一～三節をテーマとして、河面姉妹（広島）が非専任宣教師の体験を通して話り、築田兄弟（広島）は日の暮れぬうちに食べず嫌いの人達に美味しく料理しく福音を味ってもらい好きにさせようと、吉沢兄弟(福岡)からパン種が全体にふくらんで行くように福音をひろ

めようとそれぞれ証をもって鼓舞された。地方部長から今年の目標としてこの地方部から千五百人の新会員を出そう、新しい人達が去る事のないように働きかけよう、笑顔を常に保てということ、また死者の為に働き次の大会までに少くとも各自一枚のファミリーグループシートを作ろうと、具体的な提案があって一同新しく自覚と決意を促がされた。

証詞会

林兄弟（柳井）司会で兄弟姉妹宣教師達十四人の証詞と、長老定員会長渡辺兄弟の人についてのお話等、みたまの導きをうけて有意義に過ごした。

出席人数七十四人程で少人数の会ではあったが、一つの信仰によって一致する者達の集まりには確に主のみたまが満ちて、参集者達一同喜びにみたされた会であった。

◇　◇　◇

大阪地区大会

参加支部は三宮、西宮、岡町、河倍野、京都、金沢、名古屋の七支部。大都会を擁し、支部も大きいのでこちらの大会は広島に比べれば人数も多かった。MIAに百九十二人、一般大会には二百五十人以上の人達が参加した。

MIA大会

大阪府体育館別館で田口兄弟（西宮）司会の下にやはりフォークダンスと各支部熱演のフロアショウをした。

神権会

地方部長司会、十二使徒ヒンクレイ兄弟やアンドラス伝道部長が参加され、八十人程の出席者の中、七十二人が神権者という力強い神権会で、時間の都合上二つの部会に分かれずに、使徒ヒンクレイ兄弟から教義と聖約二十章と百七章にある神権の義務をよく果たす様にと鼓舞された。

扶助協会

ヒンクレイ姉妹、アンドラス姉妹を迎えて八木沼姉妹（名古屋）司会の下に時間は短かかったがプログラム順を追って、中村姉妹（三宮）、上野山姉妹（岡町）、大谷姉妹（阿倍野）から話を聞き、ヒンクレイ姉妹から扶助協会の使命と、愛ある集まりにすべきである事を伺い、各自一層の努力を心に誓った。

一般大会

ヒンクレイ兄弟夫妻と、伝道部長夫妻は十一時に会場を出発して夜の七時の札幌の会の為に飛行場へ駆けつけるとの事でプログラム

を変更、神尾兄弟（三宮）司会により土田兄弟（名古屋）のテーマ朗読の後アンドラス姉妹、ヒンクレイ姉妹、アンドラス伝道部長、ヒンクレイ長老のお話を伺った。

アンドラス姉妹からは証と教義と聖約六十章二節について、ヒンクレイ姉妹からはこの素晴しい福音を我々の愛する人々や周囲の人に話しましょうと、伝道部長から海の島々に対する主の約束があるが、島々の中でその人口の大部分は日本にいるのだからその約束はこの日本に向けられていると考えられると、いつもながら希望に溢れた力強いお話を伺った。また、ヒンクレイ長老からは、善を行わんと終りまで努めること、切花は凋れてしまうが我々は教会という根につながって凋れない様に、また働く手の様に証と信仰も使わなければ弱くなってしまうということ、常に身心を潔く保って、正直に誠実に義務を果し、周囲に愛をもって終まで努力する事等その熱のある迫力のあるお話、手近かな切花を例に使って進めるお話は、イエス様の模範と一致して聞く者一同の胸を打ち、自覚と決意を新にし幹部支持の喜びを覚えさせられたと思う。

そして会半ばにして出発の時間となり、一同起立、讃美歌八十四番を歌って使徒御夫妻伝道部長御夫妻をお送りし、後、プログラムを続行、村川姉妹（岡町）古芝兄弟（名古屋）の生活にしみ込んだ話を聞いた。

証詞会

安芸兄弟（西宮）司会、十六人の宣教師、兄弟姉妹の証詞と、午前中に残った田口兄弟（西宮）の話、新しく支持された上野山第一副地方部長の今迄の尊い血のにじむ様な体験、信仰の喜び、尊さ等、感銘深く伺った。なお第一長老定員会長渡辺兄弟から発表として、柳田征史兄弟大神権受与に関する支持提案があり一同の支持があった。

かくして今冬期地方部大会を無事終了したが、今回大阪地区では男子宿泊者達は岡町支部に宿泊、蒲団代やら朝食の接待を受け、女子宿泊者達は地元会員の御家庭に分宿、泊めて頂き、各々その愛の満ちた温いもてなしを受けて、然も未知であった姉妹達と一夜にして親しく交わる事が出来て、その素晴しい計画と、御協力故に充分の成果を挙げる事が出来た事を感じ、大会が一層有意義なものとなった事を地方部長始め各地元会員に深く感謝したことであった。

マンガ・ジェスレーション

証詞／石尾精一　川上美恵子　佐藤慰子

石尾精一（小樽支部）

僕は常に神様に感謝しています。

僕はイエスが全人類の救主であることを証します。またジョセフスミスが神様とイエス・キリストを見たということを確信し、神様は骨肉の体を有していることを確信しています。そして四つの聖典が真の神から与えられたものであると確信し、これらに基づいているものは真の福音であることを確信し、この上に設けられているこの教会の組織が神権の力によって行われ神権から与えられたものであると確信しております。そしてこの教会の教えを学んで行けば行く程、信仰が強くなるのは、この教会が真の神の教会だからと思いまた確信しています。そして自分の持つ責任を忠実に果すなら私たちは非常に幸福になるのです。これは神様が真に存在し給うことを表わしているものと思います。末日聖徒イエス・キリスト教会が唯一の真の教会であり、私たちがいつも神の御言葉に従うなら必ずすばらしい未来が待っていることを強く証します。またいつも愛と謙遜と勇気を持った心でいるならば、神は必ずお恵みを下さるという事も証します。僕の持っている証詞をこゝに述べる機会がありました事を感謝し、すべてを救主イエス・キリストの御名により申上げます。アーメン。

（十五才）

川上美恵子（室蘭支部）

私がこの教会に来るようになったのは、友達が「あなたのお兄さんの行っている教会に行きたい」と言いましたので私は兄に話しますと、兄は喜んで「お友だちと一緒に

おいで」と言い、私は二月から教会に行くようになりました。玄関を入る前、不安と期待が入り交った妙な気持でしたが一歩入るとそんな気持はなくなりました。というのは宣教師や兄弟姉妹がニコニコと握手を求めたからです。その日から家庭集会が始まりました。私は第一課から六課まで何度も繰返し繰返しやっと両親の許しを得、十日バプテスマを受けることができました。教会に導いて下さった父なる神と熱心に家庭集会を受け持って下さった宣教師に心から感謝しています。私たちは生ける神を知らない多くの人々に福音を分け与えるように努力しなければなりません。学校に行っている時、また勤めている時にサタンの誘惑が非常に多くありますが、それに負けずもっともっと努力し強いモルモンの女性になろうと思います。末日聖徒イエス・キリスト教会で使用しているすべての聖典は神様の御言葉であり、この教会が誠の神の教会である事を強く証いたします。すべて御子イエス・キリスト様の御名を通して申上げました。アーメン。

（十八才）

佐藤慰子

（金沢支部）

私は十五才の時教会に導かれて何の抵抗も感ずることなくバプテスマを受けました。

幼い私にとって知恵の言葉、什分の一、集会に出席する事などすべて神様の教えは守り易く素晴らしいものでした。本当に神の教えを守る事を習慣として成長し、責任を通して進歩する機会が与えられましたことを感謝しています。私はモルモン経を読んで最初の証を得、それから恵みに恵みを加えられて証も大きくなったと思いますが、特に証を強くされた経験は眼の病気で、失明すると医師に宣告された時に山田長老、ヒガ長老から灌油の儀式を受けて健康を回復した事と野田淳子姉妹と共に非宣任宣教師として働いた事でした。福音によって悔改める事や、多くの人を愛する事や、未来に希望を持つことが出来、眼に映る物すべてが美しく見え非常に幸福です。実に末日聖徒イエス・キリスト教会は回復された神の唯一の教会でありイエス・キリストは救い主であり神は祈りを聞きたもう生ける神であると心より証いたします。

（一九才）

フーチャンの便り

成田富士夫

日本にいらっしやいます兄弟、姉妹その後いかがおすごしですか？

私は一年間アイダホ・フォルースの新井長長(私の姉の所)のところにいまして、ボンネビル高校に通学しこの度卒業しまして、現在大望のソルトレーク市に住んでいます。今年の九月からユタ州立大学一年生として私は電気工学を専攻しています。

ソルト・レーク市はみなさまにいうまでもなくモルモンの地として、また神の御国として本当にすばらしいところです。人口は二十万人、ユタ州の首都であり、米国山岳地帯ただ一つの大きな町です。私の通っている大学からモルモンの神殿がどのたてものよりも高く建っているのがみえ、本当にすばらしい景色をみなさまにお見せできないのが残念でなりません。ブリガム・ヤングが一八四七年七月二四日にこの地に着いてから早や一一四年の年月が過ぎました。当時は何もなく、ただ荒野ばかりだつたのに、よくモルモンの開拓者たちが立派な町を作り上げたものだと感心しました。時になぜこんな荒野にしんぼう強く町を作ることができたかと思いましたが、このソルトレークに住んでみてその問題もだんだん分って来ました。彼らは神のもとに皆一つに集り、神を信じまた神とイエス・キリストからの大いなる愛とそして聖霊の導きがあったのだと思いましたが、まだ一つ何よりも大いいものは彼ら自身のたゆまぬ努力があったからだと信じます。私が大学に通うことが出来ても毎日遊んでばかりいては良い成績はとれません。MIAでまた日曜学校で福音の勉強を一生懸命にしないでも神の王国を作り、これから会員となる求道者の方々と私たちは神についてまたイエス・キリストの福音について話し合うことができるでしょうか？私たちは一〇〇年前の開拓者がしめした努力よりも、もっともっと勉強して行かなくてはなりません。今や世界は二つに分れて、もうすぐ地球が火でもえるかも知れません。この末日の世に私たちは勉強も努力もしないでのんびりとしていても良いと言うことはありませ

ん。米国から宣教師がたくさん世界のいたるところで伝道しております。このことはまことにすばらしいことです。私たちも神様の救いの計画をよく知り、この御業をもっと高めるには教会員の一人一人の努力次第です。私の友だちは現在北海道の旭川支部で伝道中のグロバーグ長老、また広島支部で伝道中のボイド長老の両方の家族の方たちに会いましたが、本当にすばらしいです。どうか日本の会員の兄弟姉妹、彼らが伝道中に言葉また習慣の違いで困ったことがおきましたらどうぞ助けてあげてください。今日はボイド長老の両親とグルバーグ長老のお父さん、お母さんの証詞を同封し、また私の新しいワード部のビショップ、アンダーソン兄弟と帰還宣教師のガンダーソン長老の証詞を同封致します。

私は先日チェイス長老と一緒にBYUを訪問しました時にシャムエイ・ライ長老、ウィルコックス長老、ヒギンス長老、アステル長老、フラ長老、山形長老、テイラー長老、ヨネモリ姉妹、マノ長老、オートン長老、ワーカ長老に会いまして皆様によろしく伝えてほしいとたのまれました。彼らは日本を本当の故郷のように懐しがっています。よくまあ日本語を忘れないで、ペラペラと話すと感心したら皆BYUの日本語のクラスを取っていて、その勉強ぶりは舌をまきました。当日はちょうど日本のパーティがあって、おすしやオセンベイ等たべ、皆麦茶をのんで日本話に花を咲せていました。このぶんだといつまでたっても日本のことを彼らは忘れないでしょう。松本市(東京中央支部)からいらした山田裕子姉妹はとても元気で、毎日私と同じユタ大学に通っておりますが彼女の英語はとても上手で先に来た私よりもスラスラと会話をしてまったくうらやましい限りです。彼女から松本支部の人たちと日本の会員の皆様によろしくとのことでした。四国高知県からの武田精子姉妹はB・Y・Uで毎日英語の勉強に忙がしくあまりゆっくりと会えませんが、ハワイから急に寒いところに来たのに平気で元気に勉強しております。私のルームメートの田中照雄兄弟は元気です。横浜支部と大阪田町支部の会員の皆様によろしくとのことです。彼はほんとうに信仰が強く、毎日私は福音の勉強を、時間のあい間をみて教えてもらっています。

このソルト・レークの市に住んで自分はこれからもっともっと神様のために働かなくてはいけないと思いました。私は御父が生きたまいますことと、沢山の宣教師が伝道に行くのをみて末の日も近いということを強く証しいたします。私の親愛なる兄弟姉妹、私たちはいつも強い信仰と大きな愛の心をもって宣教師の伝道、またバプテスマを受けていないお友だちを助けなくてはなりません。そして私はこのソルト・レークより、皆様の上に神様から祝福と努力する意志のあたえられますように祈らせていただきます。

B・Y・Uに出席しながら

朝田茂一

岡町支部の兄弟姉妹達に一生懸命にネと暖ったかい声に送られ、五色のテープを切って壮途についたのは八月二日のこと。B・Y・U (Brigham Young University) のあるここユタ州プロボの町もすでに木の葉は落つ

U・S・A

くし木々はすでに冬の装い、勇壮にそびえるロッキーの山々も、もう消えない雪が山肌を深く覆っている今日、近頃です。一万二千人を抱く大学の建物も、まだ朝もやの立ちこめる午前六時半から白い息をはづませながら学生たちが、緑の芝生に続く道をやって来るのが見えます。時計台のあるジョセフ・スミス記念館からは美しい音色をもった讃美歌が、ゆっくりと周囲の重い空気をおしのけ、静かに、そして次第に大きく広く、眼下に見渡す町々に流れて行きます。学問の殿堂の朝が、こうして始まります。シルエットの山なみを画きながら太陽が昇り始めると山の中腹にB・Y・Uの象徴である「Y」の文字が白く浮び上り、学究たちの高潔な理想をあらわしているかのようです。私達の必須科目の中にはモルモンの標準聖典、聖書、モルモン経、教義と聖約それに高価なる真珠等の科目があり、また数多くの著書で私たちにも良く知られているドキシー教授は、B・Y・Uで教鞭をとっておられ、他の大学とは異なった特色の一つです。また一週二度は、私たち、学生が一堂に会する大きなアッセンブリーがあって、月曜日には、広く世界のあらゆる分野に活やくする「時の人」を訪問者とし、水曜日には教会の幹部たちがれさまよばす。私たちはすでに十二使徒会会長のジョゼフ・フィールディング・スミス長老、スペンサー・W・キンボール長老、ハロルド・B・リー長老、扶助協会々長のスタッホード姉妹、それにアメリカン・モータースのジョージ・ロムニー長老等々、素晴らしい話、そして証詞を聞く機会を得ています。私達一人一人の人格を修養し、より強い信仰その確信を得るには、とても恵まれた機会であると云えるでしょう。また教授たちはすべて謙遜な態度で常に学生に接しておられ、接しておられると云うより私たち学生の仲間であることの存在も、共に主のもとに於いて兄弟姉妹であることのあらわれであり、福音の実践に外ならないと云えるでしょう。私はある朝、校庭を歩いていると、後ろから足早やにやって来て肩をたたき「お早よう」と声をかける人がいました。思わず振り返ったとき。それはB・Y・Uの総長アーネスト・L・ウィルキンソン長老でした。整然と整った設備の中で勉学し、埋もれる程の書物を蔵する図書館での考察に時間を費やすことの出来るここB・Y・Uの学生たち、また多くの人たちに見守もられながら、その恩恵に浴することの出来る私は、どんなに恵まれていることでしょう。ほとんどの学生たちは、三ケ月間の夏休み（六月で学期が終り、九月から新学期です）を利用して働らくことにより、向う一年間の生活費と学費を得ることの出来る経済状態は、私達外国人にとって驚くべきことです。お米、みそ、醤油、うどん、たくわん、梅ぼし、豆腐、あげ、サシミ等々、恐らく日本にあるすべての食料品が、ソルト・レーク市内にあることもまた珍らしいことの一つです。日本食堂、お菓子屋さん（町の一角は日本人街で一世、二世の方たちが経営しておられます。）等もあって、私たちの食卓を賑わせてくれます。またソルト・レークには、日本人の為の教会堂があり、私たちが今迄歌いなれ限りなく愛して来た讃美歌を手にし、神権会日曜学校、聖餐式に耳をかたむけることの出来るのも素晴らしい機会です。先日は、長い間、岡町支部の支部長として伝道して下さったホールブルック長老の御好意で、成田富士夫兄弟（いつか「聖徒の道」でフーちゃんの手紙と題した、アメリカからのお便りを憶えておられるでしょう）と共に、ソート・レーク市内を見物することが出来ました。一番最初、私達が行ったのは神殿広場、門を入ると正面には、私達がいつも写真でよく知ってい

る「かもめの記念塔」（いなごの大群が襲い作物に被害を加えたとき、かもめによって救われる）が迫っており、左手にはアッセンブリーホール、右手には、開拓者たちの記念館があります。ここを見学し当時の様子を多くの遺品に依って想像するとき、ブリガム・ヤングを先頭とする開拓者たちの一行が、如何に、この広大な土地と戦いながら、この西部に移って来たが、その苦悩の激しさが、しみじみと理解出来ると共に、「ここが神によって定められた土地だ」と叫ぶブリガム・ヤングの声を聴き、ソルトレーク谷に幌馬車を乗り入れた一行の喜びが、どんなに大きなものであったかを知ることが出来ます。手斧と、彼等自身の足で一歩一歩何千粁もあるこの西部にやって来た彼らの歴史は、西洋歴史が持つ「自然征服」の代表的なものと云えるでしょう。パイオニア・スピリット、フロンティア・スピリット、この精神こそ、今日のアメリカをきづいたに違いありません。タバナクルには、神殿広場で働らいておられる一人の長老を伴なって案内して下さいました。「タバナクル」神への讃美の歌声が、幾たびかは日本の私たちの耳にも達したことでしょう。あまりにも有名なパイプオルガン、そして今まで幾代かの予言者たちが、人間の歩むべき道を説いた説教台。今は静寂であるこのタバナクル内にいて、「なぜ神は存在しない等と云えようか」と云う心が、私たちの胸に沸き上がり、大きな喜びが、限りない力が、勇気が私たちをつつむのでした。次は神殿の庭（残念ながら私たち二人は、まだ長老ではありません故神殿に入ることは許されませんでした）日、月、星の栄光を模した神殿の柱、高くそびえる尖塔にラッパを吹く天使モロナイの金色に輝く姿を見上げるとき、一日、一日の生活が、日の栄光に入るに価値あるものであってこそ、私たちの生命は、永遠につながっていることを、はっきりと理解出来ました。とても急な坂道をのぼりきると州庁（キャピタル・ビルディング）があり、ワシントンの国会議事堂と同じ型の建物、ここからはソルトレークが一望にのぞめる程の高台、正面には州の主道路が真っ直ぐにのびています。ブリガムヤング大管長の手になる都市計画によってこの道は、約三マイル（約四・八粁）は全然曲っていないとか、ここアメリカ全土に於いても珍らしい道路だそうです。また丁度、京都の町のように、碁盤の目に道路が走っていて、ステイト・ストリート（州の主道路）を基準に東西南北に道路番号が順番についているのも、いかにもアメリカ的な考え方だと思いました。彼らの考え方と、私たち日本人との大きな違いは、大きな石を次第に小さく割り砕いて行く方法と、小石を集めて次第に大きくしていく程の違いがあるのに気づきました。太陽がソルトレークの山かげに沈むころ、急に雪模様、自動車の窓に降りかかる雪が、その結晶をはっきりと美くしく見せるのは湿度の低いためでしょうか？　尖塔を持った美しい教会堂を右に左、いくつも見過しながら、私たちは帰途につきました。頭の中には今こんな聖句が浮んでいます。「見よ、召さるる者は多けれども選ばれる者は少し」（教義と聖約第百二十一章三十四節）素晴らしい機会を得たことによって、この聖句が浮んで来たに違いありません。私たちは、日々天使モロナイのラッパの音を聞きながら、イエス・キリストが、十字架に釘で打たれる音を耳にしながら、生活しなければなりません。岡町支部の兄弟姉妹、日本の兄弟姉妹の皆さんの上に常に主のみ恵がありますよう、お祈りしつつ。（一九五九年三月岡町支部に於いてバプテスマを受け、現在ブリガム・ヤング大学アメリカ文学科に留学中）

こどものためのかげえ

おくびょううさぎ

『はやくにげないとたいへんですぞ』というものですから、それではほんとかなと、半信半ぎでみんなといっしょにかけだしました。

★

丘のそばには獅子の王様のごてんがあります。みんながワイワイ走ってくるので、王さまは、

『なんだ、なんだなにがおきたんだ』と大きなこえでみんなにいいました。みんなはびっくりしてたちどまりました。

あんまり大きなこえなのでみんながポカンとしていると、もういちど王さまは『どうしたのだ、なんであわててかけているのだ、誰かわけをいいなさい』といいました。『地

めんがこわれだしたんです。森の中からです、それでみんなにげてきたんです』

みんな、くちぐちにいいました。

★

『なに、ぢめんがこわれだしたって、そんなことあるはずはない。いったい、だれがそれをみたんだね、いいなさい』

とききましたが、考えてみるとだれもみたものはありません、それでみんなかおをあわせてだまっていると王さまがおこって

『はやく、いいなさい』と大きなこえでいうと水牛さんがのんびり頭をあげて、

『そうさんがかけてきておしえたんだよなあ、カメのじいさんや』ところがカメさんはまだそこまできていないのです。それでキョトンとあたりをみまわした時

『私じゃないですよ、くまのおばさんですよ』とあわてて象さんがいいました。

『とんでもない、しかさんがおしえてくれました』

『いいえ、りすくんがおしえにとんできてくれたので』

『ううんさるさんですよ』

『ぼ・ぼ、ぼくじゃじゃないよ。い・い・いのししのお・おじさんが、い・いっているのをき・き・きいたんだい』

『なにィ。うさぎのちびどもがはしってきやがってそういうからさ、どうもすいません王さま、おいちびすけども、いったいどこからきいてきた』

『なにィ、僕たちじゃないよ、おくびょううさぎのやつがいったんだァい。おい、おくびょううさぎィこっちへでてこいったら』

そういうとみんなしてかわいそうにすみっこで小さくなっていたおくびょううさぎさんをひつぱりだして王さまのところにつれてきてしまいました。

★

王さまはぶるぶる小さくなってふるえているおくびょううさぎさんに。

『どこだったのだ。地めんのこわれだしたというのは?』

『あのもりのなかで

す。』

『おまえはなにしていたのだ』

『あの。ねてました。するとあの、大きなおとがしてあのぢめんがゆれました』

『それで?』

『あのーあのーそれだけです』

『なんだ、それだけか、わしはもりの中にいってしらべてくる、皆ここをうごかないで、まってろ』

というと、おくびょううさぎさんを自分のせなかにのせて、あっというまに走っていってしまいました。

★

とちゆうで、やっとのこと、のこのこ走●てきたかめさんがそれをみっけて、

『王さま、たいへんですー』といいかけましたが、王さまはみむきもしないでかぜのように走って丘をこえ、もりにつきました。

★

『さあ、どこでおとがしたのだ、おしえておくれ』とししの王さまがきくと、おくびょううさぎさんは耳をふせて、こわそうに、

『あのー、あの木のしたです』といいました。

王さまが木のしたにいってみるとおくびょううさぎさんのあたたかいわらの寝どこもそのままで、まくらもとのところに、大きな木の実がひとりでニヤニヤしていました。

★

王さまはまもなくうさぎさんをつれて、すぐにみんなのところにかえっ

てきてはなしました。
　みんなはあんしんしましたが、おくびょううさぎのためにとんだめいわくにあったと、ブツブツぶんぶんおこりながら、かえっていきました。

おくびょううさぎさんはみんなのあとからはずかしそうに、下をむいてついていきました。
　そのすぐあとから、カメのおじいさんがブツクサぼやきながら石ころをよけよけ歩いてきます。むかーしのインドのおはなしです。

（おわり）

子供の日曜学校ガイド

五月！　一年中で一番、時候として恵まれた月ではないでしょうか？（ソウデス）。お休みもたくさんありますものネ。

子供の日・母の日と、私たちのこの学校でも行事としてとりあげられる日が続きます。（決して強制的行事ではありません）。しかし、何らかの型で、それを表すならば、子供たちもやがて成長した時に美しい想い出として一頁を飾ってくれるかも知れません。

一緒にカーネーションを折紙で作っても良し、お母さんに、感謝のお便りを書いても良いでしょう。母親のない子には、先生方が代理になって、先生宛にお便りを書いてもらいましょうか。その他、まだまだたくさんプランがございますでしょう。日本にとって子供たちは宝であり、希望であること、天のお父様も皆さんの成長ぶりを何時も見守っていてくださることを改めて学びましょう。

最も偉大なる教師、それはイエス・キリストであります。イエスは人々に福音をのべ伝える時、誰にでも理解できるよう、やさしく「たとえばなし」を用いて、それを教えました。

私たちも子供たちに接する機会のある今、その優れた教授法を大いに取り入れようではありませんか、こゝに新約聖書より「たとえばなしの一覧表」を作ってみました。短かいたとえは省略してあります。

『あなたがたは聞くには聞くが、決して悟らない。見るには見るが決して認めない。この民の心は鈍くなり、その耳は聞えにくく、その目は閉じている。……

それは、彼らが目で見ず、耳で聞かず、心で悟らず、悔い改めていやされることがないためである』

マタイ十三〇十四―十五

五月の練習讃美歌　九七番

三拍子の優しい曲です。

旋律も短く簡単ですが、テンポがおそ過ぎるとだらしなくなりますから歌う時十分注意しましょう。譜面によって気づかれると思いますがタイによって音がつながって居りますのでなめらかに歌って下さい。この讃美歌を歌う時にも注意すべき事は譜の下に書かれてる歌詞は仮名ですから歌う前にその歌の歌詞とよく読み意味を理解しておきましょう。

御承知のように讃美歌は私たちの祈りです敬虔な気持で心から歌いましょう。

来月の練習の歌は一〇五番です。

イエスのたとえばなし一覧表

No.	たとえばなし	福音書名		概評
1	畑の毒麦	**マタイ**	13：24～30	世の終り。
2	一粒のからし種	〃	13：31～32	天国とは。（その他、たくさんたとえの言葉あり）
3	ぶどう園での出来事	〃	20： 1～16	あとの者は先に、先の者はあとに。
4	家造りの石	〃	21：33～44	神の御国は、それにふさわしい異邦人に与えられる。
5	婚宴(ルカ14:15～24)	〃	22： 1～14	招かれる者は多く、選ばれる者はすくない。
6	十人のおとめ	〃	25： 1～13	天国とは。
7	タラントの話	〃	25：14～30	持っている人は与えられ、増々豊かになり、持っていない人は、持っているものまで取り上げられる。
8	人々を左右に分ける	〃	25：31～46	最も小な者にした親切は、私(イエス)にしたものである。
9	育つ種	**マルコ**	4：26～29	神の国は。
10	目をさましていなさい	〃	13：34～36	その時がいつ訪れるか、わからない、門番は目をさましていなさい。
11	盲人は盲人の手引が出来る	**ルカ**	6：39～45	自分の目から梁をとりのぞけ。
12	金を借りた二人の人	〃	7：41～50	自分のなした事にそれぞれに応じ報いを得る。
13	良きサマリヤ人	〃	8：30～37	慈悲深い隣り人。
14	真夜中の友だち	〃	11： 5～ 8	求めよ、そうすれば与えられるであろう。
15	愚かな金持の農夫	〃	12：16～21	自分のために、宝を積んではならない。
16	思慮深い園丁	〃	13： 6～ 9	悔い改め。
17	招かれた客	〃	14： 7～11	己を高くする者は低くされ、己を低くする者は高くされるであろう。
18	未完成の邸宅	〃	14：28～35	自分の力を再び、一歩さがって考えてみよう。
19	なくした金貨	〃	15： 8～10	罪人が一人でも悔い改めるならば神の御使の前で喜びがある。
20	放蕩息子	〃	15：11～32	悔い改め。
21	不正な家令	〃	16： 1～13	小事に忠実な人は大事にも忠実である。
22	ラザロと金持	〃	16：19～31	生前、良いものを受けても、死後までも同様ではない。ラザロは悪いものを受けたが、今は慰められている。
23	しつこい、やもめ	〃	18： 2～ 8	神は、すみやかに裁く。
24	パリサイ人と取税人	〃	18： 9～14	自分を義人だと自任し、他人を見下げている。
25	10ミナの話	〃	19：11～27	(マタイ25:14～30と同種)
26	命のパン	**ヨハネ**	6：32～59	このパンを食べる者は、いつまでも生きるであろう。
27	羊飼	〃	10： 1～18	私(イエス)は羊を知り、羊は私を知っている。

マタイとルカに載っている、たとえばなし

28	家の土台	**マタイ** 7：24～27	**ルカ** 6：47～49
29	パン種	〃 13：33	〃 13：21
30	失われた羊	〃 18：12～14	〃 15： 4～ 7

マタイとマルコとルカに載っているたとえばなし

31	あかり	**マタイ** 5：15	**マルコ** 4：21	**ルカ**11：33
32	新しいぶどう酒と古皮袋	〃 9：16～17	〃 2：21	〃 5：36～39
33	内部で分れ争う国	〃 12：25～29	〃 3：23～27	〃 11：17～22
34	たねまき	〃 13： 1～23	〃 4： 1～20	〃 8： 4～15
35	からし種（一粒のからし種）	〃 13：31～32	〃 4：30～32	〃 13：18～19
36	ぶどう園と、その主人（家造りの石）	〃 21：33～44	〃 12： 1～12	〃 20： 9～18
37	いちじくの芽	〃 24：32	〃 13：28	〃 21：29～30

母の日　特別プログラム

五月十三日

前奏曲

開会の歌　♯25幸あれ

祈り

責任者の挨拶

合唱（全員）　♯39母の日

詩、あるいは手紙（母への感謝）の朗読

合唱（全員）♯24お手つだい

分級（活動として）折紙でカーネーション作り

花束作り

母への感謝の手紙をかく（その他）

閉会の歌　♯20別れの歌

祈り

後奏曲

以上のプログラムは、参考までに載せたものです。教科書「宗教と生活」単元三、第三課も、皆様の良き手助けをしてくれますヨ。御一読してください。先生方はレッスンを通して、母親が子供たちを、どんなに愛しているか教えてあげてください。先生方自身も母親への感謝の気持が再び新鮮なものとしてよみがえることでしょう。

5月用

支部長、会長へのお願い

最近改宗者が大変多くなり共に神への道を歩む同胞(はらから)として心から喜ぶ者ですが、その反面、直ちに教会に来なくなる人々もかなりの数です。神を知り、また困難な数々の戒を守ろうと決意したこれら新しい会員に対して支部長、会長は特にいろいろと気を配って頂きたいのです。教会に来なくなる理由は各支部によっていろいろ違うとは思いますが、次に述べる三つが最も大きいものではないかと思います。

(1)教会内に親しい友達がいなくて淋しい。

(2)教会の雰囲気ががさつで心から神を礼拝し讃美することができない。(家で一人でやった方がよいと思っている)

(3)福音の教師が教師としての資格に欠けている。

これらの対策として(1)には昨年七月号で述べた歓迎委員を、(2)と(3)には(これらは最近特に問題で真面目な教養ある人が来たがらない最も大きな理由と思われる)昨年十月号の**役員教師の皆様へ**や教師養成会(これは間もなく企画致します)がお役に立つものと思います。人数が多くなって、また顔ぶれの変り方が激しくなってお忙しいときですが、どうかこの細い道を求めて来た我らの兄弟姉妹一年生を暖かく迎え入れて下さるようお願い申し上げます。**「唯一人の人たりともわれに導かば、わが御父の国に於て彼と共に汝らの悦び如何ばかりぞや」。**

「母の日」提案プログラム

きたる五月十三日(日)は母の日として特に**福音を感謝する**をテーマに次のようなプログラムを日曜学校の礼拝行事に用いるよう提案致します。

敬虔な前奏
開会の歌　三九
聖句朗読　、

家庭の中に
わが子よ、あなたの父の戒めを守り、あなたの母の教えを捨てるな、つねにこれをあなたの心に結び、あなたの首のまわりにつけよ。これは、あなたが歩くとき、あなたを導き、あなたが寝るときあなたを守り、あなたが目ざめるとき、あなたと語る。戒しめはともしび

である。教は光である。
（しん言六〇二十一二三）

二番目の歌　二二二　み言葉により

四分の話　(1)　母の教えから受けた影響
（Aコースの人が望ましい）
(2)　子に福音を教える母の喜び
福音の勉強

分級

復級

閉会の歌　三七　悪を言うな

伝道部指導者

伝道部長の任命管理のもとに伝道部の日曜学校に関していろいろと指導する。その具体的な責任は次のようである。

1. 各支部日曜学校の出席状態をまとめてユタ州デゼレト日曜学校中央管理会に送る。
2. 「聖徒の道」の「日曜学校ガイド」を書く。
3. 日曜学校に用いられる教科書の選定及び作成。
4. 伝道部内の支部を訪問して必要な援助を与える。特に支部の日曜学校（子供も含む）の創設には視覚教材、図書などを送ったりして日曜学校がより円滑に運ばれるよう努力する。
5. 伝道部内の日曜学校のやり方（クラスの分け方、プログラムの順序）について適切な改善を行う。
6. 日曜学校の基金を管理し、その使い方について検討する。（来月に詳細記す）
7. ユタ州デゼレト日曜学校協会の指示を受けて必要なプログラムを組む。
8. その他。

地方部指導者

地方部長の任命管理のもとに地方部の日曜学校に関して指導する。その具体的な例として次のようなものがあげられる。

1. 地方部の教師養成会を管理して教師の質を向上させる。
2. 伝道部の方針を地方部日曜学校に趣旨を徹底させる。
3. 地方部内の支部を訪問してその支部の日曜学校を視察し、問題点について日曜学校役員教師と懇談し日曜学校の向上をはかる。
4. その他。

支部の日曜学校

役員教師のメンバー

支部長（あるいは日曜学校担当副支部長、会長、第一、二副会長、書記、子供の日曜学校責任者（子供の日曜学校には会長会はない）指揮者、オルガニスト、教師（いずれも大人、子供とも、子供の日曜学校の教師は女性が望ましい）図書委員、歓迎委員、出席奨励委員、各役員の責任

支部長

支部長は日曜学校を進歩させるような会員（神権者が望ましい）を会長に選ぶことができる。そしていつも管理する必要がある。

1. 日曜学校会長によってある職に推選された人物の適、不適をきめる。
2. 日曜学校の備品を完全にする（讃美歌の本、オルガン、各クラスの室の確保）

日曜学校会長会

会長会は次のような責任がある。

1. 毎週計画会を行い次の事柄を考える。
   a、各自の責任を通して問題点を話合う
   b、来週の日曜学校のプログラムを確認する。（決めるのではない）
   c、半月以上先の祈り会、日曜学校の祈り、歌、二分半の話手、歓迎委員など担当者から報告を受けメモする、（会

長会のすべての人は予定表をもっており、他の二人が欠席しても司会できるように準備することが望ましい）

d、完全な登録人数を調べる。

（登録人数とはバプテスマを受けた会員と熱心な求道者の合計です。熱心な求道者とは今までに五回続けて日曜学校に出席したことがあり、過去三ケ月に一度は出席したことのある求道者を言います）

e、地方部、伝道部指導者の提案を検討する（聖徒の道日曜学校ガイドなど）

f、特別プログラム、復活祭、母の日、クリスマス、などの特別プログラムを準備する（日曜学校主催の日曜日の夜の催しなども含まれる）

g、教師がよく準備できるよう視覚教材などを点検する。

h、クラスを見てその状況を話し合い改善する点がないかどうか検討する。

i、その他日曜学校をより進歩するに必要な問題点について改善策を考える。

2. 1で決めた事柄を実行に移す。

3. 日曜学校をよりよく司会する方法。

4. 日曜学校が目的に沿って運営されているかどうかの検討（特に神を礼拝するにふさわしい雰囲気があるかどうか）

会長

1. 日曜学校全体を管理する。

2. 出席簿、時間厳守（学校の秩序、静粛敬虔な雰囲気、もしそれに反する人がいれば注意するのが会長の責任である）

3. 財政、五十円献金の整理。

4. 計画会を司会する、又日曜学校の司会者を決める。（毎週交代で司会するのが望ましい。書記は含まず。祈り会の司会は日曜学校の司会者がやるのが望ましい）

5. 祈り会、役員教師会、指導者会（地方部も含む）に必要な人たちが出席するよう指導する。

6. 新しい役員教師を内定する（支部長の承認を得て始めて公式に発表される。）

7. 正しい司会の仕方を徹底させる。

8. クラスは特に十八才以上を主に視察する。

9. 伝道本部に毎月の出席レポートを翌月十日まで提出する（記録に精通すること）。

第一副会長

1. 礼拝堂、クラスの清潔、冷暖房、通風椅子など完全になっているかどうか調べる。

2. 二分半の話手を割り当てる。（割当てる際、注意していただく事項をチラシに書いて配るのは仲々良い。一九六一年九月号五三一頁に適当な事項を並べておきましたか御参考までに。又三分を越えないように、又準備が行き届くようにするために原稿用紙を二枚渡してこれでまとめて下さいとお願いするのも良い案です）

3. 聖句朗読。

4. クラスは特に十八才以下のA・Bコースを視察する。

5. 完全な登録数を調べる。

6. 書記の仕事を監督する。

7. 支部長会書記と連絡をとって会員の数新会員、会員の転出入の有無など調べる。

8. 大人の日曜学校の歌について指揮者と相談の上決める。

9. その他会長をいろいろと助ける。会長不在のときは会長代理となる。

第二副会長

1. 子供の日曜学校を監督する。

2. 不活潑な会員に手紙を書いたりして積極的に働きかける、特別プログラムの案

内状を作って不活潑な会員に知らせる。
3. 支部の教師養成会を監督、司会する。
4. 図書や視覚教材を充実させる。
5. その他会長をいろいろ助ける。

書記

1. 次の集会にでて、その正確な記録をとる。
a、会長会の計画会。
b、祈り会。
c、日曜学校（子供の日曜学校は別に書記が必要である。又日曜学校の各クラスにクラス書記を自分で作って書記はそれをまとめるという方法をとってもよい、祈り会でクラスの出席簿を教師に渡す）
d、指導者会、役員教師会、教師養成会。
2. 歴史的な出来事（記録簿の終りのページ）
a、歴史的に興味ある出来事。
b、日曜学校の簡単な歴史で役員教師の任命、解任された日、出席の統計などを書きとめておく。
3. 日曜学校の出席をグラフに書いて会長会に提出していつも出席の状態を報告する。

子供の日曜学校責任者

1. 子供の日曜学校を司会する。（大人の日曜学校の会長会（主に第二副会長）の挨拶が最初に望まれる）
2. 第二副会長と堅密な連絡をとって必要な備品をとり揃える。
3. 歌、二分半の話手などを決める。

指揮者

1. 開会の歌、閉会の歌を選定する。
2. 練習の歌を効果的に覚えさせる（但し七分以上の時間をとってはならない）
3. 特別プログラムの聖歌隊、ハミングなどを指導する。
4. 正しい指揮法に従って指揮を行う。

オルガニスト

1. 歌の伴奏をする。
2. 前奏、後奏などで敬虔な雰囲気のうちに日曜学校が開閉会するよう努力する。（なおこれらは当教会の讃美歌のほかバッハ、ヘンデルなどの曲を用いてもよい）
3. 特別プログラムなどの際独奏を行う。

図書委員

1. 図書室の本の貸出し簿を管理する。
2. 聴視覚教材を積極的に作ったり、用いたりする。
後で図書室について詳しく書くので、そのときに図書委員の役割も具体的に分る。（図書室の設立要望については昨年度十月号五九八頁参照）

歓迎委員

1. 玄関ですべての人に歓迎の意を表わす
2. 前の席へ誘導する（前の席は一般に空き勝ちです）
3. 始めて来た人、求道者の相談相手になること、教会の役員の紹介。
4. 讃美歌のない人に本を与えるなど集会に出席するすべての人々が満足するよう積極的に働く。
（このことは昨年七月号四一三頁参照）

出席奨励委員

第二副会長の指導のもとに不活潑な会員、求道者が再び教会にくるよう次のような働きを行う。
1. 手紙や特別プログラムの案内状を送る
2. 家庭訪問をおこなう。

MIA リーダー

教師養成用レッスン
良く教え、指導するための六つの基本的標準

第三課　レッスンを計画し、準備すること

末日聖徒は我々が職業的な牧師を持たず、厖大な教会の仕事を自発的に、無報酬で行っている、という事実に誇りを持っている。しかしながら、我々が職業として専門的でないという理由で、レッスンを検討し、準備しなくとも構わない、という事を意味するのではない。もし我々の働きが「善きもの」に効果的でないとするならば、職業的な資格の欠如は我々の霊的な意欲と準備の両方共、強制的なものにしてしまう。誰かがいった、「愛と技巧が共に働く処に、傑作が生まれるだろう。」

解りやすくするため、この課では教師を、常に、意中に置いて進めていくことにする。しかし、提案は活動でも、クラスでも適用しうるようにする。

一般的な基本となる準備

教師に関係のある準備に、二種類がある。(1)その課程の全体の準備。(2)各クラスの事情に応じた個々の準備。ここでの検討は主に後者についてである。前者については主に、このシリーズものの第五課に述べられてある。また、来年度の新しいレッスンを教えようと準備している教師に、教師の心になければならない二、三の案を提案しよう。

1. 最初の課を教える前に、全体のマニュエルを読みなさい。これは教師に見通しを与えるためである。教師は各レッスンを全体を構成する一部と見るだろう。責任を与えられた晩に、次のレッスンに踏み込んでしまわないようにして呉れる。また、頭にいつも、全体のアウトラインを留めておけば、教師は滞ることなく勉強を進め、高めていくことができる。

2. 教課過程の全領域を広く学び、読んでおきなさい。その方面では専門家ではない人がレッスンを教えるように召された時、自分の能力の限界を意識する。だが、支那のもつとも有名な師である孔子の云った言葉「物知りで、いつもよく学ぶ人は、他人を導くことができる。」を聞けば安心するであろう。教師は全てを知る必要はない。しかし、現在持っているものを保持し、増し、生徒の前方にいるように、学んでいなければならない。それでは、教師に何を読ませたら良いのか。第一に、マニュエルにある各章か、補助テキスト

を読んだらよい。もし、教課過程が宗教の分野であるならば、聖書の系統的な学習が役立つだろう。事実、末日聖徒の教師は聖書の研究を日々の心の糧としてきた。第二に、教師は彼が教えている年令別グループについて学ぶ必要がある。たくさんの優れた書物は子供たちの発達期に関して利用しうる。教師はまた、教授と指導の原則を学び、彼の働きに彼らを適合させるようにしなさい。最後に、教師は彼の直接の知己から豊かに物事を有りのまゝ引き出せるように、自分の周囲の生活の観察者になるよう自からを訓練しなさい。

3. 増加する知識の手掛りを保持する方法を発達させなさい。教師は各々最良の方法を考え出すであろう。教師の中にはレッスンの度に角封筒や紙バサミを使用し、年間を通してそれらばかり利用している者もいる。また、他の人の中にはアルファベット順に整理されたカード式の索引やルーズリーフのノートを使っている。いう迄もなく、我々は覚える以上に沢山の事を忘れ勝ちである。色々な方法で知識の貯え方を見出さなければならない。

個々のレッスンの準備

今、一つ一つのレッスンを如何に計画するかというところに来ている。むろん、それには色々とある。アサヘル・D・ウツドラツフとアダム・S・ベニオン両博士は優れた計画とそれに対する理由とを持っている。（この章の最後を参照）我々の計画も大体それらと同じである。

第一段階、マニェエルにあるレッスンを読み、そうしている間に、頭に浮んだことがらを何かの紙にざっと書き留めておく。あなた方の記憶を探り出し、創造力を駆使しなさい。次に示すように、項目の大ざっぱな分類は便利である。

考え　聖書　証例　質問事項　限定された言葉
……　……　……　……　……

第二段階　一、二回、レッスンを読み、吟味をしたら、次の重要な段階は空白な頁の最初にあなたの目標を書いてみることである。教える際に、その目標はあなたを照らす灯りとなり、目的へ近づける梯子、身を支えてくれる鉄棒にもなる。（来月号に続く）（襄二記）

五月二十四日「ゴールド・アンド・グリーン・ボール」

五月の宵は何と魅惑的なことだろう。美しい花々のかおりが乙女の長い髪の毛をなでてゆく。さわやかな風が紳士の足もとでたわむれる。ロマンティックな調べが若い私たちを舞踊へと誘う。私たちのＭＩＡにも年中最大行事の一つである「ゴールド・アンド・グリーン・ボール」の季節が訪れました。

各支部にあって充分な練習時間を用意し、不足のない企画を立てましょう。

まず各々の支部にあって、最大の年令層を知るべきであって、それによってダンスの種類の選択を行うべきでしょう。エンサイン・ローレルの多い支部にあっては、フォークダンスが主体となることでしょうし、Ｍメン・グリーナーの多い支部にあっては、ボール・ルーム・ダンス（社交ダンス）が大半の時間をしめることでしょう。

最近は強烈なリズムにのって踊るツイストが流行っている様ですけれどＭＩＡに於いては行わないで下さい。私たちがお互にエチケットをわきまえて踊る優雅なダンスこそ、若い人々の霊的なものを進歩させるに役立つものであって、単なる笑声や、快楽のみを連想させる様な踊りはＭＩＡの場にふさわしくないからであります。ＭＩＡの会長会の人はダンスの指導者と良く相談の上、曲目を選定致しましょう。宣伝係を選びチラシやポスター

等によって支部部内に早くから知らせ、すべての兄弟、姉妹や友人たちがもれなく招かれる様にして下さい。席上デモンストレーションがあれば一段と愉しいことでしょう。よく練習したチームのよどみのないダンスを見ることは本当に美しいもので、私たちもあの様に踊ってみたいと言う望みをいだかせるものです。

では各支部にあってゴールド・アンド・グリーン・ボールを催すにあたって次のことに特に注意して下さい。

一、MIAに適したダンスを選ぶこと。

二、室内の照明は暗過ぎぬこと。（ローソクは使用しないこと）

三、女子の服装に注意をあたえ、MIAの服装の標準を遵守すること。

四、MIAの開会、閉会時間を厳守すること。

◎すべての人々が楽しい踊りに入る様にMIA役員の方々は常に気を配って下さい。

◎またこの日は新しいお友達も多く見えることでしょう。禁酒、禁煙であることがわかる様に目につく所に書いておきましょう。注意しに行って議論を起したり、その人に不快の念をいだかせないように、あらかじめ知らせておく方が良いからです。

では、MIAの装飾係りが腕をふるった会場で満員のお客様を迎えて素晴しいゴールド・アンド・グリーン・ボールの開かれますことを心より祈って居ります。

なお各支部ごとのゴールド・アンド・グリーン・ボールのかわりに、地区、地方部単位で大きな会を持つことも素晴しいことです。その場合支部長さんを通して各支部計画を立てて下さい。また地方部のMIA大会をゴールド・アンド・グリーン・ボールにすることがあります。その場合、その地方部に属する支部にあっては、五月に支部内のゴールド・アンド・グリーン・ボールを持っても良いし、或は、持たなくても良いです。もし持たない場合はその夜の活動の時間は練習にあてるなり、各グループ活動にするなりして下さい。しかし支部の人が全員地方部大会に出席出来る状態であい場合やはり、支部内のゴールド・アンド・グリーン・ボールを持つ方が望ましいと思います。

（註　ゴールド・アンド・グリーン・ボールの際、女王を選出したり、美人コンテストのようなものは絶対やらないで下さい。）（栄子記）

会長会役員の欄

「責任」

MIA会長は、MIAに対し全責任を有する。すなわち、現在MIAに出席を怠っている人たちに対しても（すべて管轄下にある若い人たちに対し）責任を持つのである。

貴方たちは、常に（集会のある時ばかりでなく）若い人たちの安寧と福祉に対して責任をもつ。

貴方たちは、彼らを悪より保護し、彼らの主張を擁護し、彼らに勧告と指示を与え、レクリエーション、進歩、成長、発達の機会を提供する筈である。

またMIAの組織が完全であるか、出席を勧誘する計画が活用されている、組織内の集会を適切に運営して行くに必要な施設があるかどうかを調査する責任もある。その他MI

Aの開かれる日以外の日に行われるすべての社会的活動、演劇の練習に関しても附きそいの責任を持つ。

「なすべき事となすべき方法」

組織

MIA計画は、伝道部MIA中央管理会の提案に従って作成されねばならない。すべてのクラス及びその活動が有能な人の指示指導下にあるかどうかを調べよ。

会員制度

支部のすべての若き青年男女の名前がMIAの記録に登録されているかどうかを調べよ。会員たち全員が敬虔さを維持しているかどうか、また内外共の風紀と行動とが礼拝堂に於ける敬虔さの維持の補充をなしているかどうかを調べよ。

（求道者は三回以上の出席を持って会員とみなす。）

テーマ

テーマが提出され、それが適切に演説指導者により取り扱われているかどうかを調べよ。

読書課程

読書課程が適切に奨励されているかどうかを調べる。読書課程を読破する様にあらゆる機会を選んでなされるべきであり、八月にその年度が終る時、すべてのMIA会員が読み終る様に奨励されるべきである。

集会

すべての教師及び活動の指導者が集会の計画に関して各自の特別の責任を果しているかどうかを調査する。これらの教師・指導者はすべて貴方たちの指示下にある。彼らに援助と指示を与え、MIAの種々なる活動を彼らと共に少くとも一ケ月前より計画する。

手引き・テキスト・参考書

これらのものが各教師・指導者に行きわたっているかどうか調査する。またレッスンのクラスの一人一人がテキストや手引きを持っているかどうか毎回毎回良く調べる。

広告・宣伝

MIAの計画が貴方たちの住む地域一帯に流布されて、広告されているかどうかを調べる。プラカード、掲示、パンフレット、手紙等によってこの目的を達成することが出来る。

（次号へ続く）

☆ お知らせ ☆

各支部長会及びMIA会長殿

各支部MIA月間レポートを今迄は麻布広尾町の伝道本部に送って頂いて居りましたが二月より伝道部MIA指導者佐藤襄二兄弟、姉妹宅に送って頂くことになりました。どうぞ、その月が終りましたら翌月十日迄に郵送して下さい。なおすでに御送附頂いている支部で住所の間違っている支部が二・三あり、郵便局の手を何度もわずらわせたものがありますので念の為、もう一度お調べ下さい。

東京都練馬区春日町二丁目二六一〇番地

佐藤襄二

Adress Bro. and Sis. Joji Sato

1-2610 Kasuga-cho

Nerima-ku, Tokyo.

◎エンサイン・ローレルの手引き、Mメン・グリーナーのテキストを各クラス全員が購入するよう伝えて下さい。

エンサイン・ローレルのテキストは毎月聖徒の道に載っています。

ジョセフ・フィールディング・スミス著

末日聖徒イエス・キリスト教会歴史粋　28

第三部　オハイオおよびミズーリ時代

第十七節　「誠命の書」—「種々の光栄」の示現—ハイラムに於ける暴動

（千八百三十一—千八百三十二年）

六、「誠命の書」の出版準備。　ハイラムで開かれたこの特別大会でジョセフ・スミスを通して与えられた数々の啓示と誠命とを編集出版する件が考慮された。これは主の御旨であった、というのはこの大会中に主は「教義と聖約」の中にある最も重要な啓示の一つ、すなわち主が「この世に住める人々よ……こはまたわが誠命の書のはしがきにして、その書は汝らに公にせんためわが彼らに与えしところなり」（教義と聖約第一章）と仰せになった啓示を下したもうたからである。聖徒だけでなくこれら世に住める人々も「これらの誠命をしらべよ。そはこれらは真実確かなる誠命にして、その中に言われたる予言も約束もすべて成就さるべければなり」と命ぜられた。

また主は「これらの事を進んですべての人に知らせんと思うなり。そは、われは人々を偏り見る者にあらざれば、すべての人々をしてその日の速に来る事を知らしめんと思えばなり。而して地より平和の取り去られ、悪魔自らの領土を支配する時はなおいまだしといえども今や近きにあり。されど主もまたその聖徒らを支配し、その真中にありてこれを統治せん。而してイヅミヤ、すなわちこの世に下る審判のために天より降り来らん」と仰せになった。

七、啓示の確認。　「誠命の書」は始め一万部出版することにきまったが、これは後になって（千八百三十二年五月一日）三千部に

変更された。ジョセフ・スミスは長老たちに演説をして、主は数々の誡命と啓示を与えて彼らに大きな祝福を与えたもうたから、間もなく世の中に送り出されるべきこれらの誡命について、どのような証詞を彼らが喜んで立てるか大会に出た人々にたずねたいと言った。「主のはしがき」を読んだ後、多数の兄弟が立ち上り「誡命の書」の中で公けにされるはずの啓示が真実であることを証した。この大会は二日間つずきこのほか多くの事務が処理された。

八、啓示に対する批判。　この大会に出席した者の全部が必らずしもこれらの啓示を充分理解したわけではない。少くとも一人の人間はそれらの啓示の言葉に疑いをもっていた。これはウィリヤム・E・ムレリンであって彼は最近教会へ入ったばかりであった。そこで予言者（ジョセフ・スミス）は主から誡命をたまわり（教義と聖約第六十七章）その中で彼は「汝らの中にて最も賢き者」を勧誘して啓示の中から最も小さいものをさがし出させ、而してこれと同じものを書こうと企てさせよ、と命ぜられた。この「賢き者」が啓示の中の最も小さいものと同じものを書き得たならば、長老たちは「わが誡命の真理なるを知らず」と言うことを正しいとされるであろう。もしこれができないことが解ったならば、彼らはその誡命が真理であると証をしないと「罪ありとされる」にちがいない。

九、ウィリヤム・E・ムレリンの愚行。　ウィリヤム・E・ムレリンは「最も賢い者」として、主の出したもうた挑戦を受け入れた。彼の企ては屈辱的な失敗に終り、居あわせた長老たちに啓示の真理を確信させたのであった。そして長老たちはジョセフ・スミスに下った数々の啓示が真理であることをすべて世の人に喜んで証するということを異口同音に言いあらわした。

十、他の重要な啓示。　この大会の終りに主は、自分たちのことについてたずねたオルソン・ハイド、ルーク・ジョンソン、ライマン・E・ジョンソンおよびウィリヤム・E・ムレリン等のために今一つの啓示を下したもうた（教義と聖約第六十八章）。これらの人々に与えられた忠告と誡命につけ加えてシオンに住む人々に与えられた多くの勧告と誡命とがあった。というのは、主の宣言したもうたところによれば、これらの人々の中には怠け者が多く居たからであって、これらの者は安息日を守り、祈りを忘れず、彼らの子供に福音の諸原則を教え、満八才になったらバプテスマを受けさせるべきであった。彼らはこれらの事を守っていなかったからである。それであるから、主は彼らをお喜びにならなかった。教会を導くための神権と神権の権能についても数々の教えが与えられた。そして、オリヴァ・カウドリはこの知識を彼がシオンへ帰ってゆくとき持って行くことになっていた。

十一月三日、主は「誡命の書」の追加と呼ばれる偉大な啓示を下したもうた。これは「教義と聖約」の第百三十三章にのっている。

十一、啓示の整理。　オリヴァ、カウドリがこれらの啓示をミズーリへ持って行って、そこで印刷をする事に決った。それでジョセフ・スミスは、オリヴァ、カウドリが十一月の十五日頃に発つというので、それ迄の毎日を忙しく暮した。予言者は「ほとんど二週間というもの、私は誡命を再び調べたり大会に出たりして一刻の余裕も無かった。十一月の一日から十一月の十二日迄四回特別大会を開いたからである」と誌している。

十二、啓示の持つ価値。　ハイラムのジョン・ジョンソン宅で開いたこれら大会の終りに教会員たちはこの啓示を深く考慮した末

「この啓示が教会にとって全世界の持つ此世の富に匹敵する価値があると有難く思う」ことを手を挙げて賛成した。モルモン経とジョセフ・スミスに下った啓示に由来して教会員ならびに世の人が、受ける利益もよく考えて、大会は彼らを救いまた世の人を救うためこれらの聖なるものを授けたもうた主の量り知れぬ智恵に対し全く有難く思うべきであるという印象をよく表わしていた。

十三、「誠命」を奉献する。 ジョセフ・スミスがオリヴア・カウドリとジョン・ホイットマーの二人の兄弟ならびにこの二人の管理に任されたかの神聖な書き物を主に奉献し聖別する任を受けることが挙手によって支持された。

更にまたジョセフ・スミス、オリヴァ・カウドリ、ジョン・ホイットマーおよびシドニー・リグドン等が勤勉精励して「神の恵みによりこれらの聖きものを世にあらわした」ため、教会の律法に従い彼らを任じてこれらのものを管理せしめ、また彼らの家族ならびにハイラム・スミス、クリスチャン・ホイットマー、ピーター・ホイットマー、ジェコブ・ホイットマー、ハイラム・ページ、デビド・ホイットマーの家族およびサムエル・スミス、ウイリヤム・スミス、ドン・カルロス・スミスたちがシオンの地に於てゆずりの地を受けるに足る者としてシオンの監督に覚えられることを挙手によって支持をした。

啓示とそれを携えて行く人々とを奉献することに関して出されたこの動議に一致して、ジョセフ・スミスがこの時この処置をとった。この大会が終ると間もなくオリヴァ・カウドリとジョン・ホイットマーの二人は彼らの旅行に出発した。

十四、敵の中で働く。 十二月の一日、ジョセフ・スミスとシドニー・リグドンは「暫くの間伝道に出て」世の人々に呼びかけよと命ぜられた。また主は「汝らの敵に公けにも私にも、共に立ち合うよう呼びかけよ。而して敵を言い破るべし。汝ら忠信ならば彼らの恥は明らかにせらるべし。されば汝らの敵をして、主に対して強く抗弁せしめよ」と仰せになった。

この命が下った理由は、背教者エズラ・ブースがオハイオ州ラヴェンナで教会に反対する数々のうそ偽りを発表して盛んに活動をしていたからである。この召しによりジョセフ・スミスとシドニー・リグドンの二人は十二月の三日カートランドに向けてこの啓示を成就する旅に出た。暫くの間二人はカートランド、シャラースヴィル、ラヴェンナその他の所で語り、自分たちの主張の正しいことを証明し敵を閉口せしめた。二人は主の「みたま」に恵まれ、自分たちに属された約束が実現するのをその目で見た。それは各地の興奮をしずめ、ラヴェンナで発行された「オハイオ・スター」にあらわれた中傷的の記事から拡がった正しくない印象を変えることができたからである。

十五、アマーストの大会。 千八百三十二年一月二十五日オハイオ州ロレーン郡アマーストに於て大会が開かれ、この大会では多くの事務が友愛の精神のうちに仲よく処理された。ジョセフ・スミスは大神権者の長として支持された。

そして「教義と聖約」の七十五章として知られている啓示もこの時に下り、多数の長老が二人ずつ組んで全国各地へ伝道に出るよう召しを受けた。

十六、種々の光栄と関する示現。 この大会が終るとジョセフ・スミスとシドニー・リグドンの二人は聖書改訳の仕事を再び始め

た。この仕事をしている間に「現在残る真理よりしても、もし神が人が肉体の時に為せる行為によりてすべて各々に報いをたもうならば聖徒らの永遠の住家という意味を有する天なる言葉は、一つ以上更に多くの王国をその中に含むこと自ら明らかなりと思わる」と二人は宣言した。従って千八百三十二年二月の十六日、聖ヨハネの福音の改訳を行っているうちに、二人の祈りは応えられ天が開けて御父と御子を目のあたりに見た。

この示現の記事は「教義と聖約」第七十六章にある通りわが教会の文献中最も優れた一篇であり、人類に与えられた最も偉大な啓示の一つである。この示現は永遠と人類の将来に就て多大の光明を投げると共に、光明に背いて彼らの「贖い主」を再び十字架につける罪を犯す「滅びの子ら」を除き、御手の工なるすべてのものを救いたもう慈み深き父なる神の恵みを教えるのである。各人はすべてその行為に従って報いを受ける、またその罪を清められた後、御父の住みたもう処の何所かに一人一人の居り場所が用意してあるということは、創世の前から用意されたとこの示現が明らかに告げている救いの計画の中にあらわれている光栄ある恵み深い備えである。人間の言葉では充分に言い表せない主の御能力と慈悲深い親切とを知らせるこの驚嘆すべき啓示を批評しようとするのは確かに愚かなことであろう。

十七、この示現に関する予言者の見解　この天が開けたことに関するジョセフ・スミスの言葉はまことに当を得ている。「前の示現を通して世界に突如現われた光明ほど、主の王国の階級に就て聖徒らを喜ばせることのできるものはなかった。あらゆる律法、あらゆる誡命、あらゆる約束、あらゆる真理および人間の愚かさによって聖句の純粋さが汚されないままにある創世記から黙示録に至るまでに現われている人間の将来に関するあらゆる点は、未来の生活に種々の階級の光栄があるという説の完全であることを示し、その書が永遠の世界の記録からの写しであることを立証している。

ここに現われた種々の考えの荘厳なこと、言語の純粋なこと、行為の範囲、救いを受ける者たちがイエスを主なりと告白しひざを折りかがめるためにすべてが完成するまで続く期間、忠実な者の受ける良い報いと罪悪のために受ける罰、これらはみな人間の心の狭さを以てしては悟ることができない故に、心の正しい者は一人のこらず『それは全く神の啓示である』と叫ばざるを得ない」と。ジョセフ・スミスであっても誰であっても、人間の力によって導かれたのではそれを書くことはできなかったであろう。

十八、ハイラムに於ける暴徒らの乱暴。　オハイオ州ハイラムへ行って住む前にジョセフ・スミス夫妻はジョン・マードック長老のところから二人の小児（ふたご）を養子に貰った。このふたごの母はお産のときに亡くなったので、この子たちが生れた当日やはり自分のふたごを亡くしたエマ・スミスがマードック長老の子供を貰って育てることにしたのである。千八百三十二年三月、このふたごが十一箇月くらいの時、二人ともはしかにかかったので予言者とその妻は看護のために休むひまもなかった。三月廿四日の夜、家族が就寝してから一隊の暴徒が家をとり囲み扉を破って侵入し予言者を戸外に引きずり出した。その途中予言者はようやく片足だけ自由にして、それで以て悪漢の一人を蹴り倒した。ここに於てその悪者どもはあくたいをつきながら、これ以上じたばたすると殺すぞとののしった。それから予言者の口を塞いでついに気絶させた。

EIGO KAIWA TEKISUTO
DAI YON KA

1 **Chōrō :** Tanaka San, watakushitachi ga kyō koko ni tsudoimashita no wa ima no yo ni kamisama ga omeshi ni natta yogensha ni tsuite ohanashi suru tame desu. Kare no namae wa Josefu Sumisu deshita. Senhappyaku nijū nen ni Josefu Sumisu wa Nyūyōku Shū ni toshi wakaku shite sunde imashita. Kare wa doko ka no kyōkai e itte mite, saki watakushitachi ga hanashita to onaji yō na konran wo miidashimashita. Sokode kare wa dono shūkyō ga shinjitsu ka inotte tazunete miyō to kessin shimashita.
Kare wa chichi oya no nōjō no chikaku ni aru mori ni hairi, hizamazuite nesshin ni inori wo hajimemashita. Sono toki kare wa maue ni taiyō nimo mashite kagayaku hitotsu no hikari no hashira wo mimashita. Sono hikari no hashira wa shidai ni orite kite kare no ue ni furi-sosogimashita. Soshite sono hikari ga kare no ue ni todomatta toki, kare wa fude nimo kami nimo tsukushigatai kagayaki to eikō to wo motte irassharu futari no o-kata ga, kare no maue no kūchū ni tatte irassharu nowo mimashita.
Soshite sono uchi no hitori ga Josefu Sumisu ni kotoba wo kakete kare no namae wo yobi, "Ko wa waga ai shi nari," to osshaimashita. Tanaka San, kono o-futari wa donata deshita deshō ka?

2 **Tanaka :** Kamisama to Iesu Kirisuto dishita.
..... (V. 1)

3 **Chōrō :** Watakushi wa Josefu Smisu ga Chichi naru Kami to sono Onko Iesu Kirisuto wo mita koto ga hakkiri wakatte imasu. Makotoni kare wa anata ga Jonzu Chōrō to watakushi wo miru koto ga dekiru yō ni, so-no o-futari wo hakkiri miru koto ga dekita no desu. Soshite kare wa kare jishin no karada ga jissai ni Kami to onaji yō ni tsukurareta koto wo shirimashita. Tōji, kyōkai dewa Kami wa tada rei dake de, karada wa nai to osierarete imashita. shikashi, watakushitachi wa Josefu Sumisu no keiken wo tōshite kami ni tsuite nani wo shiru koto ga dekiru deshō ka?

4 **Tanaka :** Kamisama wa karada wo motte irassharu to iu koto desu.

ENGLISH CONVERSATION TEXT
LESSON 4

1 **Elder:** Mr. Tanaka, the reason we have gathered together here today is to tell you about a prophet who the Lord has given us in our own time. His name was Joseph Smith. In 1820 Joseph Smith was a young man living in the state of New York. He wanted to join a church, but as he visited those in his neighborhood he found this same confusion we have been talking about. So he decided to pray and ask God which of the churches was right. He went to a grove of trees near his father's farm and knelt in prayer. As he was praying he saw a pillar of light exactly over his head, above the brightness of the sun, which descended gradually untill it fell upon him. When the light rested upon him he saw two personages in the form of men whose brightness and gloly defied all description standing above him in the air. One of them called Joseph Smith by name and said, "This is My Beloved Son." Mr. Tanaka, who were they?

2 **Tanaka:** God and Jesus Christ.

..... (V. 1)

3 **Elder:** I know that Joseph Smith did see the Father and the Son. In fact, he could see them just as clearly as yon can see Elder Jones and me. And he could see that his own body truly was created in the image and likeness of God. At that time the churches taught that God was only a spirit, that He had no body. But what do we learn about God from the experience of Joseph Smith?

4 **Tanaka:** That He has a body.

..... (V. 2)

5 **Elder:** Yes, he does. They also taugh that God the father and Christ, his son were both the same person. But what did Joseph Smith see?

6 **Tanaka:** He saw two Personages in the form of men.

..... (V. 3)

7 **E[der:** Of course, that's true; Gid does have a body, and He made us to be like Him. From what we have said here Mr. Tanaka, Why Was Joseph Smith a prophet?

..... (V. 2)

5 **Chōrō :** Hai, sōdesu. Mata toji no kyōkai wa, kamisamato onko Iesu kirisuto wa dōitsu no kata de aru to oshiete imashita. Shikashi Josefu Sumisu wa nani wo mimashita ka ?

6 **Tanaka :** Ningen no katachi wo shite iru futari no o-kata wo mimashita.

..... (V. 3)

7 **Chōrō :** Mochiron, sonotōri desu. Kamisama wa karada wo motte irasshari, sono katachi no yō ni watakushitachi wo o-tsukuri ni narimashita. Tanaka san, ima-made no hanashi kara kangaete mite, naze Josefu Sumisu wa yogensha deshita deshō ka ?

8 **Tanaka :** Chichi naru Kamisama to Onko Iesu Kirisuto wo mite tomoni katariatta kara desu.

9 **Chōrō :** Dewa Josefu Sumisu no oshie wa naze sonnani taisetsu deshōka ?

10 **Tanaka :** Kare no oshie wa chokusetsu Kamisama kara kuru oshie dakara desu.

11 **Chōrō :** Josefu Sumisu no oshie wa tashika ni Kamisama kara kuru oshie desu. Sono hi mori no naka de Josefu Sumisu wa Kirisuto ni izure no shūkyō wo shinjitara yoi ka to ukagaimashita. Iesu Kirisuto wa Josefu ni dono shūkyō nimo kuwawaruna to iwaremashita. Naze Iesu Kirisuto wa sono yō ni osshatta to omoimasuka ?

12 **Tanaka :** Sorera no shūkyō wa shinjitsu wo oshiete inakatta ni chigai arimasen.

13 **Chōrō :** Mattaku sonotōri desu. Karera no oshie wa machigatte imashita. Kirisuto wa, shūkyō no kyōshitachi wa tadashii kyōgi yori mo mushiro machigatta oshie wo toite iru to osshaimashita. Kirisuto no osshata koto kara Josefu wa, Kirisuto ga kono yo ni ikite irasshatta toki setsuritsu sareta Iesu Kirisuto kyōkai wa naku natte shimatta koto wo shirimashita. Shitotachi ga korosarete shimatta no to, Kami ni kawatte waza wo okonau kennō de aru shinken ga kono chijō kara torisararete shimatta koto wa sono riyū desu. Dewa Iesu Kirisuto no jidai ni kaette Kirisuto no kyōkai ga dō natta ka kangaete mimashō. Kodai no kirisuto kyō no yōsu wo shiru koto wa, konnichi, shin no kyōkai wo midasu ue ni dono yō ni yakudatsu deshō ka?

8 **Tanaka:** Because he saw and spoke and with the Father and the Son.

9 **Elder:** So why are the teathings of the prophet Joseph Smith so important?

10 **Tanaka:** Because his teathings come directly from God.

11 **Elder:** I am sure they do. In the grove of trees that day, Joseph Smith asked Christ which of the churches he should join. Joseph was told that he must join none of them. why do you suppose the Savior told him that?

12 **Tanaka:** They must not have been teaching the truth.

13 **Elder:** Exactly right. Their teachings were wrong, and Christ said that the teachers in the churches were teaching false rather than true doctrines. From what Christ then said, Joseph lerned that the Church of Jesus Christ, the one He had organized when He lived on the earth, had been lost. The reason for this was that the apostles had been killed and that the priesthood, the authority to act for God, had been taken away from the earth. Now let's go back to the time of Christ and see what happened to His church. Once we know what the Church of Jesus Christ was like in ancident times, how will that help us find the true church today?

(Vocabulary 1.)

the reason (wake, riyū), gather together (atsumari au, tsudou), in our own time (ima no yo ni, gendai ni), was a youngman living in the State of New York (Nyūyōku Shū ni toshi wakakushite sunde imashita, Nyūyōku shū ni sunde ita seinen deshita), as he visited (otozureta toki, itta toki), those (churches, kyōkai), in his neighborhood (kinjo ni aru), confusion (konran), dified all description (fude nimo kami nimo tsukushigatai, arayuru byōsha wo yurusanai), personage (okata, jinbutsu),

(Vocabulary 2.)

did see (hontō ni mita), as cleary as (…to onaji yō ni meiryō ni), was created (tsukurareta, sōzō sareta), in the image and likeness of (…no sugata, katachi ni),

(Vocabulary 3.)

God the father (chichi naru kami), the same person (dōitsu no kata), two personage (futari no okata), in the form of (…no katachi wo shite iru).

伝道本部だより

バプテスマ　一九六二年一月

古川温志　旭川　福島裕史　広島
狩野昌子　〃　船越瑞恵　〃
宮下美奈子　〃　梶山尚広　〃
水上みどり　〃　亀井竜男　〃
笹木靖子　〃　片岡美保子　〃
菅原美枝子　〃　川井政雄　〃
高丸浩一　〃　服部勝彦　京都
高丸美枝　〃　猪又茂子　松本
山崎征子　〃　橋本志保利　〃
安達和代　福岡　松倉加都子　〃
石井典子　〃　佐藤文俊　〃
雲林院敏子　〃　鳥橋義和　西宮
西　寿子　〃　中川弘子　岡山
小倉美佐子　群馬　矢野久子　〃

藤森幸子　札幌　松本アサ子　〃
藤森完子　〃　木村瑤子　〃
藤森裕悟　〃　早瀬高修　〃
湯沢紀子　〃　白田昭一　山形
茂木敏夫　東京中央　山本芳助　柳井
藤　和子　〃　（韓国で十六名）
西沢寿子　〃
高井淳一　〃
田村温要　〃
山本久子　〃
林　照子　東京北
末永芙美子　〃
田辺雅代　〃
種村弘子　〃
遠藤昌夫　東京西
藤本つほる　〃
河原美重子　〃
岩根園枝　〃
栗山　豊　〃

（バプテスマ）
〔男女別〕
（支部）
旭川
福岡
群馬
広島
京都
松本
西宮
岡山
札幌
東京中央
東京北
東京西
山形
柳井
（人数）
5
0
0
5
（姉妹）
（兄弟）

（バプテスマ）
〔年令別〕
（姉妹）
（兄弟）
5
0
0
5
12
14
16
17
18
19
20
21
22
24
25
27
48
55
66
（人数）

幻想

フジタ裕穂
（旭川支部）

貧しくてもいいから父が生ていてほしかった
いくら病といっても
姉さんがどんなに悲しく苦しんだか
一人の幼な子が知っている
部屋のかた隅で見ていたのだ……
姉さんが僕を見てニッコリ笑った
　僕もニッコリ笑ったが、何か悲しかった
「父ちゃんが生きていたら……」
疲れ果てたように姉さんが呟やいた
姉さんも苦しかったんだろう

野ら犬に生れ腹のすいた小犬に何ができるだろう……人から蹴られ……つまみ上げられ
ほうり投げられた
それでも　、のことを知らぬ小犬だった
必死になてヨチヨチ歩きまわった
生きるために……
そして育った姿はどんなものだったろう
反抗とヒニクレの暗い固りだったろう

父がいてくれたらなあと幾度も思ったか
そうしてこの街へ来た……
そしてこの街で一つの輝きを見つけた
この野ら犬にも父がいることを
父だ……
父が頭上にいていつも見守ってくれるんだ
きっと不幸な姉さんも天父様と一緒にいるにちがいない　姉さん幸わせにね
今までずいぶん苦しかった
でもこれからはどんな苦しいことも
　天父様が導いて下さるにちがいない
きっと……

図書案内

教義と聖約
高価なる真珠
モルモン経　上質革製合本……1100円
教義と聖約
高価なる真珠　合本……300円
モルモン経（新訳）……200円
信仰箇条の研究……330円
モルモンとは？（新版）……150円
完成への道……200円
初等協会教科書……150円
総合聖句の手引……150円
日本系図探究要覧……100円
古代アメリカの生活……100円
旧約聖書物語……150円
家督権の祝福……100円
扶助協会手引……50円
求道者教育法……120円

日曜学校用

宗教と生活Ⅱ……150円
よきおとずれ……100円
聖書物語……150円
福音の実践……150円
聖典中の指導者……150円
我等の標準聖典……200円
古代の使徒……150円
福音の紹介……200円
シオン山の救い手たち……200円
教義と聖約の教え……150円

MIA用

生活の目標……150円
モルモン経研究ガイド……100円
MIA・エンサイン・ローレルの手引……150円
演説が上手になる法……150円

讃美歌及び歌集

末日聖徒讃美歌（新版）……400円
子等は歌う……100円
レクリエーション歌集……400円

……注文は各支部長へ……

支部所在地

北海道地方部

旭川　旭川市八条五丁目
MIA集会場　旭川公会堂

室蘭　室蘭市幸町八九
電話（七〇五四）

小樽　小樽市富岡町一ノ三五
電話（二一八二二四）

札幌　札幌市北二条西二四丁目

東中央地方部

群馬　高崎市並榎町二七五

甲府　甲府市山田町六三

松本　松本市同心町六一二

新潟　新潟市中大畑町五五七　金井方
電話（二一八六六〇）
集会場　中央会館　四階

仙台　仙台市光禅寺通り二八
電話（五一〇八九七）

東京中央　東京都渋谷区八幡通一ノ三四
電話（四〇八一三三〇七）

東京北　東京都豊島区高田本町二ノ一四八七
集会場　日曜学校　武蔵野ドレメ
MIA　徳川生物研究所

東京南　東京都大田区南千束町二四九
電話（七八二一六一三一）

東京西　東京都港区青山北町六ノ三四
電話（四〇二一四〇一〇）

山形　山形市八日市八五〇

横浜　横浜市港北区篠原町二九
電話（四九一八七七二）

西中央地方部

阿倍野　大阪市阿倍野区阪南町中一ノ三八

福岡　福岡市東藁院二ノ四〇

広島　広島市古田町古江四〇〇ノ三

金沢　金沢市成瀬町二ノ四　野田方
集会場　農業センター

京都　京都市左京区松ケ崎桜木町一四

名古屋　名古屋市昭和区北山町三ノ四一
電話（七三一四二一〇）

西ノ宮　兵庫県西ノ宮市仁川町四ノ五四
電話（五一〇四二一）

岡町　大阪市豊中市岡町北二ノ一八

岡山　岡山市七日市七八

三ノ宮　神戸市灘区篠原本町四ノ三五
電話（八六一二六〇二）

柳井　山口県柳井市今市三九一

沖縄地方部

普天間　沖縄宜野湾村野嵩区三二八

那覇　沖縄那覇市松尾区一三九

聖徒の道
一九五八年三月十七日
第三種郵便物認可第六巻第四号
振替口座東京七六二二六番
発行人　ポール・C・アンドラス
編集人
発行所　末日聖徒イエス・キリスト教会
北部極東伝道部　東京都港区麻布広尾町十四